

ハンドヘルドバーコードリーダー

バーコードメニューシート Ver6.00

はじめに

このたびはデータロジック社製ハンドヘルドバーコードリーダをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本設定メニューシートではハンドヘルドバーコードリーダの各種パラメータ設定に基づく内容を記載しておりますので、ご一読いただきますようお願いいたします。尚、バーコードリーダの接続や仕様については、別紙の「取扱説明書」に記載していますので、そちらを参照してください。

ご注意

- ①本書の内容の全部または一部を無断で転載することは禁止されています。
- ②本書の内容に関しては改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- ③本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り記載漏れなどお気づきのことがございましたら巻末記載の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願いいたします。
- ④運用した結果の影響については③項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

表記について

本書では、バーコードリーダを正しくお使い頂くための重要な情報について以下の様な記号を用いています。



機器の破損や不具合の原因となる可能性がある事柄

目次

ハンドヘルドバーコードリーダの初期設定値	1
インターフェイスの選択	4
RS232 インターフェイスの設定	5
USB・PS/2 キーボードウエッジインターフェイスの設定	9
ペンエミュレーションインターフェイスの設定	14
USB-COM の設定	16
データフォーマットの設定	19
パワーセーブ機能の設定	38
リーディングパラメータの設定	40
デコーディングパラメータの設定	45
読み取りバーコードの設定	46
ASCII キャラクタ配列表	57

ハンドヘルドバーコードリーダーの初期設定値

ハンドヘルドバーコードリーダーの初期設定値は以下の通りとなっています。

RS232インターフェイスの設定	
通信ボーレートの設定	9,600bps
パリティの設定	無し
データビット長の設定	8ビット
ストップビット長の設定	1ビット
ハンドシェイクの設定	ノープロトコル(無手順)
ACK/NAKプロトコルの設定	無効
FIFO機能の設定	有効
キャラクタ間ディレイ時間	無効
受信タイムアウト時間	5sec

キーボードウェッジインターフェイスの設定	
Caps Lock機能の設定	Caps Lock OFF
Num Lock機能の設定	Num Lock OFF
キャラクタ間ディレイ時間	無効
コード間ディレイ時間	無効
キーボード言語の設定	USAキーボード

ペンエミュレーションインターフェイスの設定	
動作モードの設定	インタープレット
Code 39への変換機能の設定	変換機能を無効にする
最小出力パルス時間の設定	600 μ sec
オーバーフローの設定	ミディアム
出力信号レベルの設定	ノーマル
アイドル信号レベルの設定	ノーマル

データフォーマットの設定	
コードID付加機能の設定	無効
データ調整機能の設定	無効
コード桁数送信機能の設定	無効
ヘッダーキャラクタの設定	ヘッダー無し
ターミネータキャラクタの設定	
キーボードウェッジインターフェイス時	(ENTER)
RS232インターフェイス時	(CR/LF)
データ置換機能の設定	無効

パワーセーブ機能の設定	
読み取りスキャン速度の設定	高速度スキャン
スタンバイ機能の設定	無効
スリープモードの設定	無効

リーディングパラメータの設定	
トリガースイッチの設定	ハードウェアトリガースイッチ
トリガースイッチ動作の設定	レベルモード
オートオフタイマー時間の設定	無効
LED ON時間の設定	1sec
LED OFF時間の設定	0.6sec
読み取りサイクルの設定	シングルリーディング
スタンド認識ブザー音の設定	ブザー音有効
レーザスキャナポインター機能の設定	ポインター機能無効
セーフティタイマー時間の設定	0.5sec
ブザー音量の設定	ブザー音量(最大)
ブザー音程の設定	ブザー音程2
ブザー音タイプの設定	モノトーン
ブザー音長の設定	短
グリーンスポット光の点灯時間の設定	標準

デコーディングパラメータの設定	
インク滲み読み機能の設定	有効
オーバーフローコントロール機能の設定	有効
キャラクタ間ギャップコントロール機能の設定	有効
デコーディングセーフティ機能の設定	無し

読み取りコードの設定	
EAN/UPCコードの設定	EAN8/EAN13/UPC-A/UPC-E(ドット無し)
チェックデジットの設定	全チェックデジット送信
2 of 5コードの設定	インターリーブ 2 of 5コード
チェックデジットの設定	有効、送信
読み取り桁数の設定	4桁~99桁
Code 39コードの設定	Code 39スタンダード
チェックデジットの設定	無効
読み取り桁数の設定	1桁~99桁
Code 128コードの設定	Code 128の読み取り
その他のコードは設定されていません	



設定を初期設定に戻す

設定を初期設定に戻す

◎設定後はインターフェイスの選択を必ず行って下さい。



ソフトウェアバージョンの確認

ソフトウェアのバージョンを確認する

◎スキャナのソフトウェアバージョンをデータとして送信します。
(RS232/ キーボードウエッジインターフェイス選択時のみ有効です)



設定パラメータの確認

設定パラメータを確認する

◎スキャナの設定パラメータを ASCII データとして送信します。
(RS232/ キーボードウエッジインターフェイス選択時のみ有効です)

◎設定パラメータの確認方法

このコマンドによる設定パラメータの取得は以下の手順にて行います。

- ① バーコードリーダーを PC と RS232 インターフェイスまたはキーボードウエッジインターフェイスにて接続します。
- ② RS232 インターフェイス接続時には PC のターミナルソフトを起動して、通信パラメータをバーコードリーダーのパラメータと合わせ、キーボードウエッジインターフェイス接続時にはテキストエディターソフトを起動します。
- ③ バーコードリーダーで一度、バーコードの読み取りを行い、送信データが正確に受信できるか確かめます。
- ④ バーコードリーダーで上図のバーコードを読ませると、PC の画面上に設定パラメータが表示されます。

キーボードウエッジインターフェイスにて接続している場合には、一度に全設定パラメータが表示されて終了しますが、RS232 インターフェイスにて接続している場合には設定パラメータをパケットデータとして送信するため、パケットデータの受信が終了すると PC のターミナルソフト画面の最終行に "Press any key to continue." と表示してストップしますので、何かキー押して次のパケットの受信を行います。

- ・ RS232 インターフェイス接続時には設定パラメータの中で「キーボードウエッジインターフェイスの設定」と「ペンエミュレーションインターフェイスの設定」に関してはパラメータの取得はできません、またキーボードウエッジインターフェイス接続時には設定パラメータの中で「RS232 インターフェイスの設定」と「ペンエミュレーションインターフェイスの設定」に関してはパラメータの取得はできませんので、注意が必要です。



注意



設定パラメータのコピー

設定パラメータのコピーモード

◎バーコードリーダーの設定パラメータを他のバーコードリーダーにコピーができます。

◎設定パラメータのコピー方法

このコマンドによる設定パラメータのコピーは以下の手順にて行います。

- ① 設定の送信側、受信側とも RS232 インターフェイス用ケーブルを接続して、電源を ON にします。
- ② 設定の受信側のバーコードリーダーの設定を RS232 インターフェイスの初期設定値に設定します。
- ③ 2 台のバーコードリーダーのインターフェイスケーブルをクロスケーブルにて接続して、送信側のバーコードリーダーで上図のバーコードを読ませると送信側のバーコードリーダーから受信側にパラメータの送信を開始し、受信側のバーコードリーダーからブザー音が無くなれば、設定パラメータのコピーが終了します。

インターフェイスの選択



RS232

RS232 インターフェイス

◎RS232 インターフェイスでの通信が可能になります。



ペンエミュレーション

ペンエミュレーションインターフェイス

◎ペンエミュレーションインターフェイスでの通信が可能になります。



デスクトップ PS/2(ALT モード)

デスクトップウエッジインターフェイス (ALT)

◎デスクトップタイプの PS/2 キーボードポートを使用したキーボードウエッジインターフェイスで ALT モードで動作を行います。



ノートブック PS/2(ALT モード)

ノートブックウエッジインターフェイス (ALT)

◎ノートブックタイプの PS/2 キーボードポートを使用したキーボードウエッジインターフェイスで動作を行います。



デスクトップ PS/2

デスクトップウエッジインターフェイス

◎デスクトップタイプの PS/2 キーボードポートを使用したウエッジインターフェイスで 101 キーボードに対応します。



ノートブック PS/2

ノートブックウエッジインターフェイス

◎ノートブックタイプの PS/2 キーボードポートを使用したウエッジインターフェイスで 101 キーボードに対応します。



USB キーボード (Windows)

USB キーボードインターフェイス

◎USB キーボードインターフェイスでの使用が可能です。
(Microsoft 社 Windows 98SE 以降の OS に対応しています。)



USB キーボード (ALT モード)

USB キーボードインターフェイス (ALT)

◎USB キーボードインターフェイスの ALT モードで使用が可能です。
(Microsoft 社 Windows 98SE 以降の OS に対応しています。)



USB キーボード (MAC)

USB キーボードインターフェイス (MAC)

◎USB キーボードインターフェイスでの使用が可能です。
(Apple 社 MAC OS 8.6 以降の OS に対応しています。)



USB-COM

USB-COM インターフェイス

◎USB インターフェイスでシリアルインターフェイスポートにソフトウェアエミュレーションにて通信を行います。



・USB-COM インターフェイスはソフトウェアエミュレーションにて動作を行いますので、別途ドライバーソフトウェアが必要です。ドライバーソフトウェアと動作環境につきましては、弊社営業担当窓口まで、お問い合わせをお願いします。

RS232 インターフェイスの設定

データビット長の設定



7ビット



8ビット

通信ボーレートの設定



1200bps



2400bps



4800bps



9600bps



19200bps



38400bps

ストップビット長の設定



1ビット



2ビット

パリティの設定



パリティ無し



偶数 (EVEN) パリティ



奇数 (ODD) パリティ

ハンドシェイクの設定



ノープロトコル (無手順)



RTS/CTS



XON/XOFF

◎ RTS/CTS

この設定はバーコードリーダと接続機器間で以下の様な通信制御が可能となります。(下図タイミングチャート参照)

- ①バーコードリーダが起動すると RTS 線をアクティブにしてデータ送信を要求します。
- ② CTS 線がアクティブであれば、バーコードリーダはデータ送信を開始します。
- ③もし CTS 線が非アクティブになれば、バーコードリーダはデータ送信を中断します。(*1)
- ④ CTS 線が再びアクティブになれば、バーコードリーダはデータ送信を再開します。

(*1) データ送信中断時はバーコードリーダがバーコードの読み取りができない状態になりますので、注意が必要です。

もし、データ送信中断時にバーコードの読み取りを行うには "FIFO 機能" を有効にする必要があります。

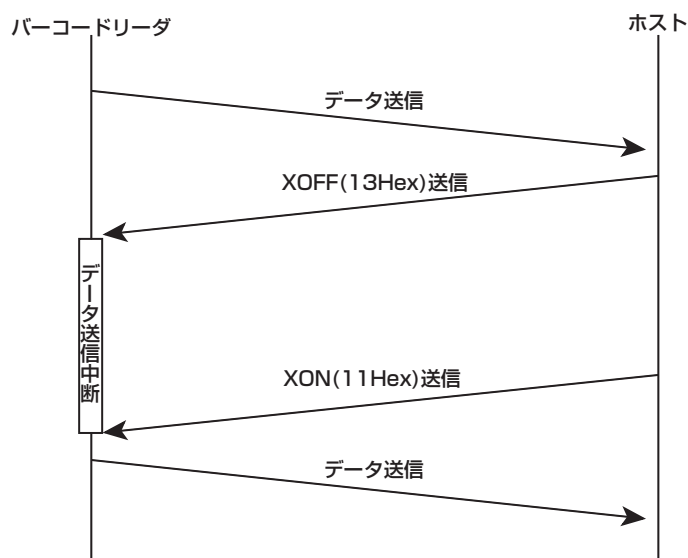


◎ XON/XOFF

この設定はバーコードリーダと接続機器間で以下の様な通信制御が可能となります。(右図通信フロー参照)

- ①バーコードリーダがデータ送信中に XOFF(13hex) キャラクタを受信すると、データの送信を中断します。(*1)
- ②バーコードリーダは XON(11hex) キャラクタを受信すると、データ送信を再開します。

(*1) データ送信中断時はバーコードリーダがバーコードの読み取りができない状態になりますので、注意が必要です。もし、データ送信中断時にバーコードの読み取りを行うには "FIFO 機能" を有効にする必要があります。



ACK/NAK プロトコルの設定



ACK/NAK を有効にする



ACK/NAK を無効にする

このプロトコルを使用する場合のバーコードリーダーの動作は以下の通りとなります。

- ①バーコードリーダーが読み取りデータを送信する。
- ②ホストが読み取りデータを正しく受信した場合は、バーコードリーダーに ACK(06hex) を送信する。
- ③バーコードリーダーが ACK を受信すると、メモリー内の読み取りデータを消去して、次の読み取りに移行する。
- ④ホストが読み取りデータを正しく受信できなかった場合は、NAK(15hex) を送信する。
- ⑤バーコードリーダーが NAK を受信すると、メモリー内の読み取りデータを再度ホストに送信する。
- ⑥バーコードリーダー読み取りデータの送信後、あるいはホストからのデータ受信後から "受信タイムアウト" 時間で設定された時間内に受信が行われなかった場合はブザー音を「プププ」と3回鳴らして、通信フェーズを強制終了して次の読み取りに移行する。



注意

バーコードリーダーを ACK/NAK プロトコルで使用する場合は、通信フェーズが終了するまでは次の読み取りに移行せず、トリガースイッチを押しても読み取り用の LED は点灯しません。また、このプロトコルを有効にする設定時は自動的に FIFO 機能の設定は無効となります。

FIFO 機能の設定



FIFO 機能を有効にする



FIFO 機能を無効にする

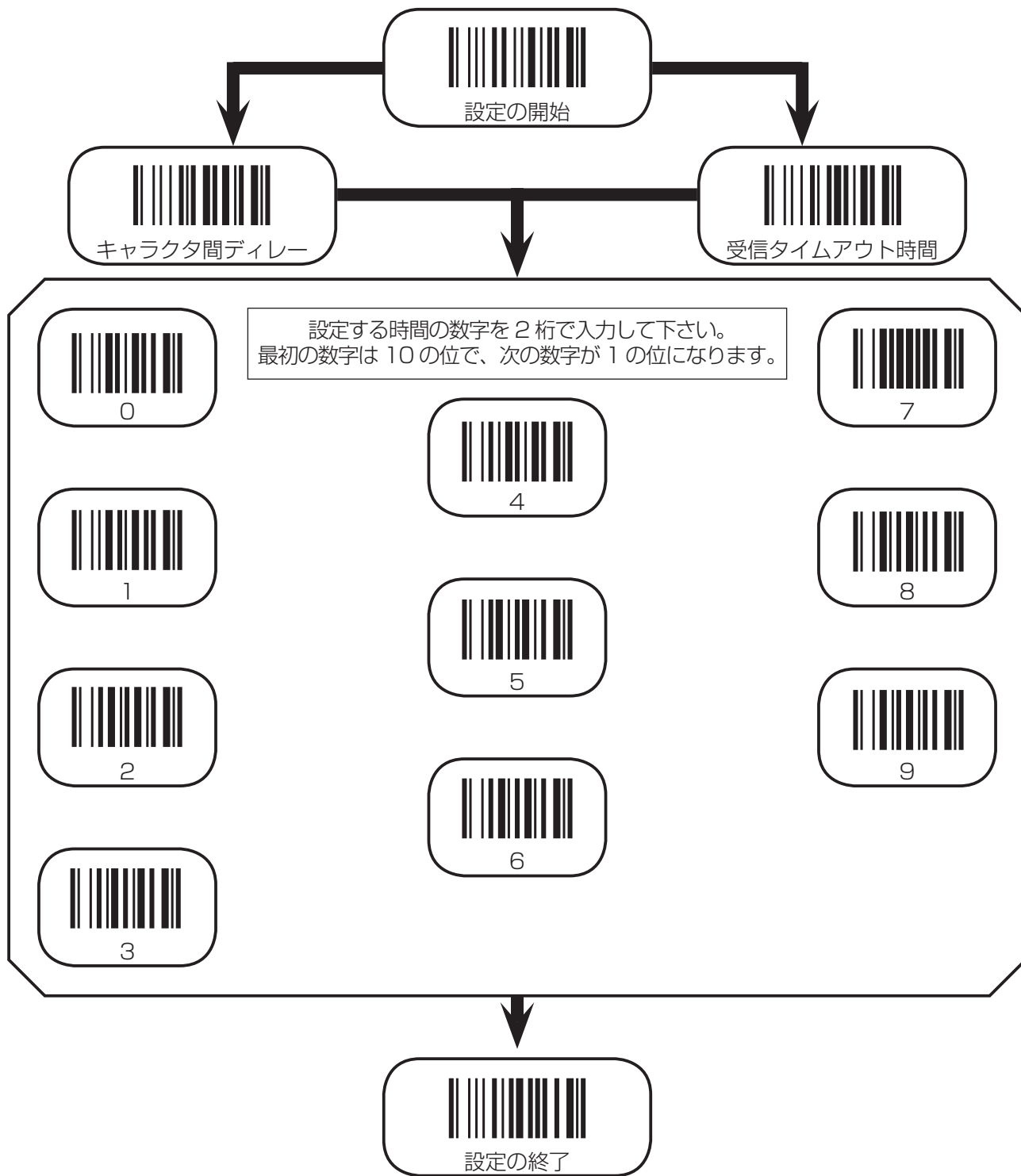
この機能を有効にすると、バーコードリーダーの読み取りデータがホストに送信できない時にバーコードリーダーが読み取りデータをバッファメモリーに保存して、ホスト側への通信が開始した時にメモリー内のデータを読み取りした順番に送信をする機能です。



注意

この機能が有効時のバッファメモリー容量は 185 キャラクタです。もし、それ以上の読み取りを行えば、送信バッファがいっぱいであることを示すブザー音を鳴らして読み取りデータをメモリー内に保存ができなくなりますので、このモードを使用する際はバッファメモリーがいっぱいになる前に送信が再開できる様に考慮する必要があります。

キャラクタ間ディレー時間 / 受信タイムアウト時間の設定



◎キャラクタ間ディレー

読み取りデータの各キャラクタ間にディレー（遅延）を発生させて、ホスト側で受信処理が遅い場合でも確実に受信を行うための機能です。

- 例） 時間 "00" はディレー無効
 時間 "01" は 1msec ディレー
 時間 "99" は 99msec ディレー

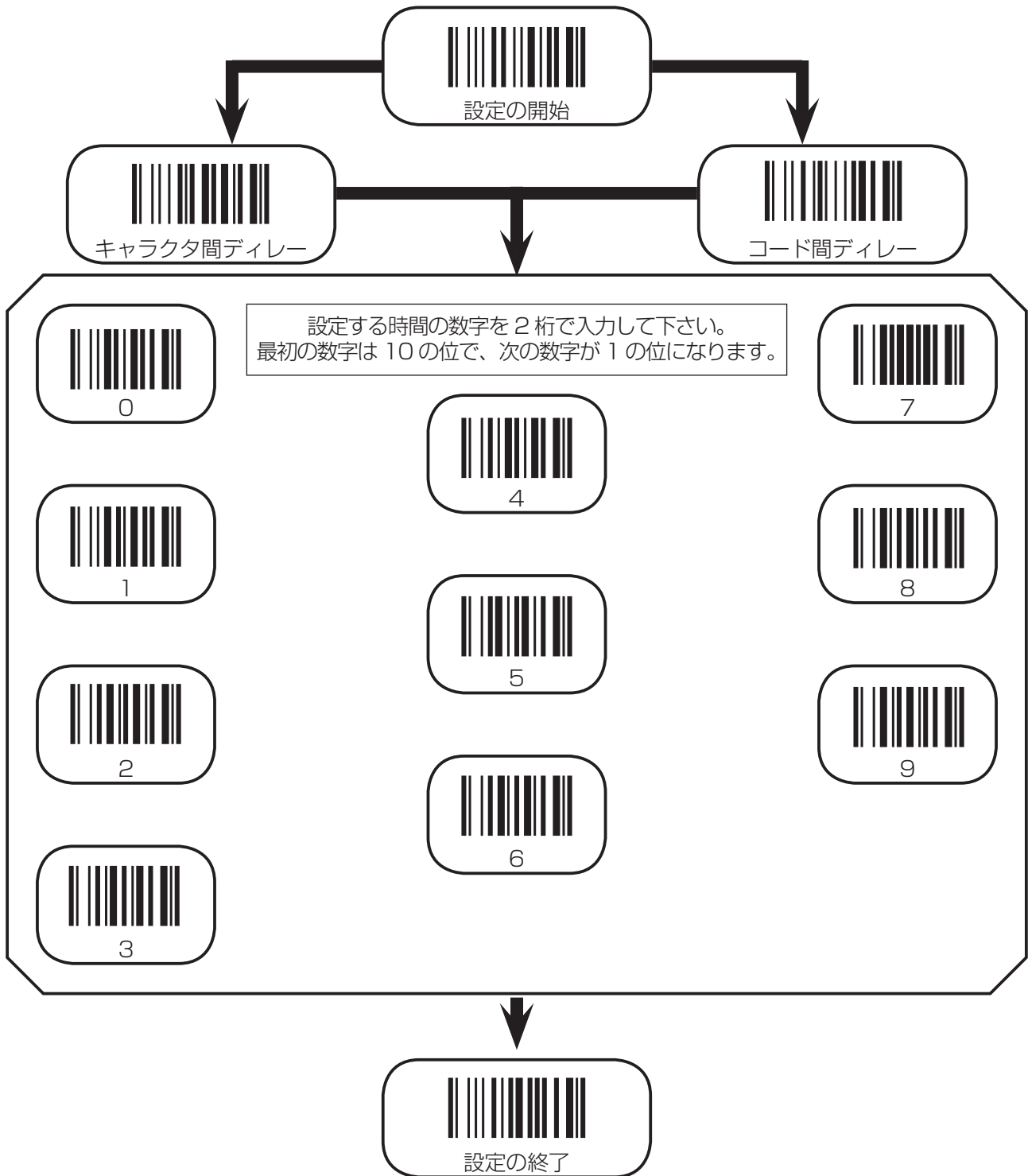
◎受信タイムアウト時間

通信による設定モード終了時にホストから設定モード終了コマンドが受信されなかった場合に設定し経過後、設定モードを強制終了して、それまでに設定したパラメータを無効にして、前のパラメータで起動させる機能で、数字2桁で時間設定をします。

- 例） 時間 "00" はタイムアウト無効
 時間 "01" は 0.1sec 後タイムアウト
 時間 "99" は 9.9sec 後タイムアウト

USB・PS/2 キーボードウエッジインターフェイスの設定

キャラクタ間ディレー時間 / コード間ディレー時間の設定 (USB・PS/2)



◎キャラクタ間ディレー

読み取りデータの各キャラクタ間にディレー（遅延）を発生させて、ホスト側で受信処理が遅い場合でも確実に受信を行うための機能です。

- 例) 時間 "00" はディレー無効
- 時間 "01" は 1msec ディレー
- 時間 "99" は 99msec ディレー

◎コード間ディレー

読み取りデータの各コード間にディレー（遅延）を発生させて、ホスト側で受信処理が遅い場合でも確実に受信を行うための機能です。

- 例) 時間 "00" はディレー無効
- 時間 "01" は 1sec ディレー
- 時間 "99" は 99sec ディレー

Caps Lock 機能の設定 (PS/2)



Caps Lock を ON にする



Caps Lock を OFF にする

この機能の ON/OFF 設定によって、デスクトップタイプの PC でキーボードウエッジインターフェイスを使用する場合は下表の出力となります。

バーコードリーダの設定	PCのキーボードの設定	バーコードデータ	Codabar S/S	キーボードデータ
Caps Lock ON	Caps Lock ON	小文字→小文字 大文字→大文字	大文字	大文字
Caps Lock ON	Caps Lock OFF	小文字→大文字 大文字→小文字	小文字	小文字
Caps Lock OFF	Caps Lock ON	小文字→大文字 大文字→小文字	小文字	大文字
Caps Lock OFF	Caps Lock OFF	小文字→小文字 大文字→大文字	大文字	小文字



注意

CodabarS/S とはスタートキャラクタとストップキャラクタのことです。

Caps Lock 自動識別機能の設定 (PS/2)



自動識別機能を有効にする



自動識別機能を無効にする

この設定は PS/2 キーボードウエッジインターフェイスを選択時のみ有効になります。「有効にする」設定にした場合は、自動的に Caps Lock の状態を識別して制御を行うので、PC のキーボードで Caps Lock を操作しても無効となります。そして、「無効にする」設定にした場合は PC 上のキーボードの Caps Lock キーの操作で制御ができますので、PC 上の Caps Lock キーで制御を行う場合は、「無効にする」を選択して下さい。

Num Lock キーの設定 (PS/2)



Num Lock キーを変更しない



Num Lock キーを変更する

この設定は ALT モードの PS/2・USB キーボードウエッジインターフェイスを選択時に有効になります。「変更しない」設定にした場合は、バーコードリーダが読み取りデータ送信時に PC のキーボードで設定されている NumLock キーの設定状態を変更せずに送信します。「変更する」に設定した場合は、バーコードリーダが読み取りデータ送信時に PC のキーボードで設定されている Num Lock キーの設定状態を反転させて、送信終了後は元の状態に戻します。

キーボード言語の設定 (USB・PS/2)



日本語キーボード



USA キーボード

この設定は ALT モード以外の PS/2・USB キーボードウエッジインターフェイスを選択時に有効になります。まず、キーボードウエッジインターフェイスの選択をした後にこの設定を行うと「日本語キーボード」の場合は 106/109 キーボード仕様となり、「USA キーボード」の場合は 101 キーボード仕様となります。

キーボードウエッジでのキー配列登録の設定 (PS/2)

ここでは、DOS/V パソコンの標準キーボード (101/106/109 キーボード) では無く、特殊なキー配列のキーボードを使用する場合にバーコードリーダの送信データをそのキー配列に合わせる設定方法を紹介しします。もし P4 のインターフェイスの設定にある「デスクトップキーボードウエッジインターフェイス」と「ノートブックキーボードウエッジインターフェイス」の各設定での動作に問題がある場合や PC のアプリケーションソフト上で特殊なキー配列にてキーボードを使用している場合に、以下の手順に従って設定を行うと、ほとんどのキー配列に対応することが可能となります。

① 4 ページの設定でインターフェイスの設定を行う

② PC の電源を一度 OFF にして、再度起動する



注意

PC の再起動の場合には、ハードウェアの初期化が行われない場合がありますので、一度電源を OFF にしてから再度 ON にしてハードウェアを完全に初期化して下さい。

③ 以下のバーコードを読ませる



キー配列変更の開始

④ キー配列表に従ってキーボードのキー配列の登録を行う

次頁の配列表の左側の数字の順序に従って、右側に書かれている記号に該当するキーを全て押して、バーコードリーダにキーボードの配列を記憶させます。(キーボードのそれぞれのキーを押してから、離れた時にバーコードリーダのブザー音が 1 回鳴ります。最後の 74 番目のキーの登録完了時にはブザー音が 2 回鳴ります。)



注意

- ・もしキーを離してもブザー音が鳴らない場合は再度キーをゆっくりと押して下さい。
- ・配列表の記号には Shift キーを押しながら目的のキーを押す特殊記号も含まれていますが、その場合は一度 Shift キーを押して、ブザー音が鳴ってから、目的のキーを押します。
- ・配列表の 1 から 4 までのキーについては必ず合致しているキーを押して下さい。5 以降のキーについては目的のキーを登録します。
- ・キー配列表の 1 から 74 のすべてのキーを登録完了までは、バーコードリーダは読み取り動作ができませんので、登録作業を中断する場合には、バーコードリーダのケーブルを PC から外して、バーコードリーダを初期化して下さい。
- ・この設定で登録した配列は P3 の「設定を初期設定に戻す」で消去されます。

キー配列表

1	Shift	16	Shift + + ; れ	31	* : け
2	Alt	17	< , ね	32	+ : れ
3	Ctrl	18	= - ほ	33	Shift + < , ね
4	Back space	19	> . る	34	Shift + = - ほ
5	Space	20	? / め	35	Shift + > . る
6	Shift + ! 1 め	21	~ を 0 わ	36	Shift + ? / め
7	Shift + " 2 ふ	22	! 1 め	37	@ `
8	Shift + # 3 あ	23	" 2 ふ	38	A ち
9	Shift + \$ 4 う	24	# 3 あ	39	B こ
10	Shift + % 5 え	25	\$ 4 う	40	C そ
11	Shift + & 6 お	26	% 5 え	41	D し
12	Shift + ' 7 や	27	& 6 お	42	い E い
13	Shift + (8 ゆ	28	' 7 や	43	F は
14	Shift +) 9 よ	29	(8 ゆ	44	G き
15	Shift + * : け	30) 9 よ	45	H <

46	I に	56	S と	66	}] む
47	J ま	57	T か	67	^ ^
48	K の	58	U な	68	Shift + / ろ
49	L り	59	V ひ	69	Shift + @ °
50	M も	60	W て	70	Shift + { [°
51	N み	61	X さ	71	Shift + _ ¥ -
52	O ら	62	Y ん	72	Shift + }] む
53	P せ	63	っ Z っ	73	Shift + ~ を 0 わ
54	Q た	64	{ [°	74	半角/ 全角
55	R す	65	_ / ろ		

⑤以下のバーコードを読ませて設定を終了する



ペンエミュレーションインターフェイスの設定

出力信号レベルの設定



ノーマル



インバート

「ノーマル」に設定すると、バーコードリーダは読み取ったバーコードデータで「バー（黒）の部分」を "HIGH" に「スペース（白）の部分」を "LOW" にて送信を行います。

「インバート」に設定すると、バーコードリーダは読み取ったバーコードデータで「バー（黒）の部分」を "LOW" に「スペース（白）の部分」を "HIGH" にて送信を行います。

アイドル信号レベルの設定



ノーマル



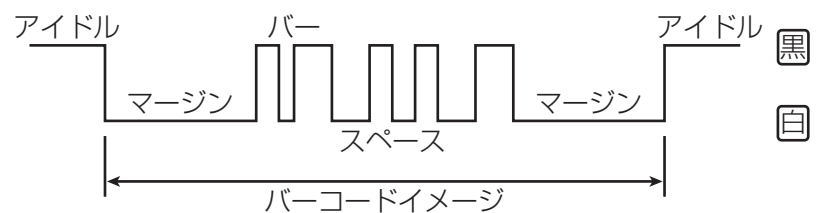
インバート

「ノーマル」に設定すると、バーコードリーダは読み取りをしていない時のレベルを "HIGH" にて通信を行います。

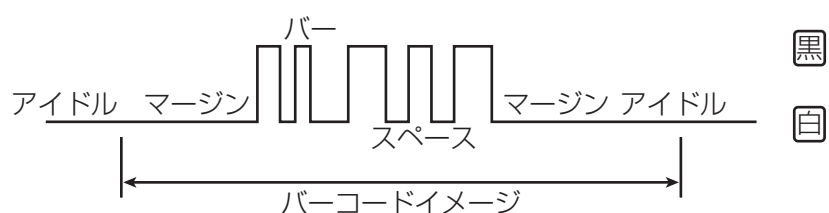
「インバート」に設定すると、バーコードリーダは読み取りをしていない時のレベルを "LOW" にて通信を行います。

■出力信号の設定とバーコードデータについて

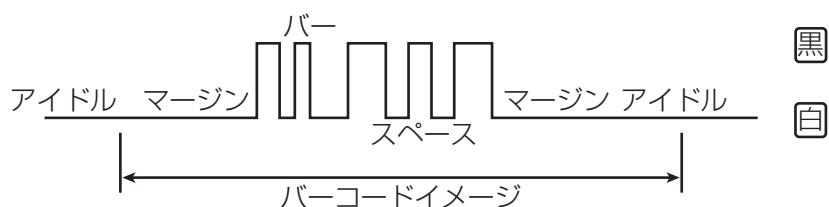
- ①出力信号レベル : ノーマル
 アイドル信号レベル: ノーマル
 での信号波形



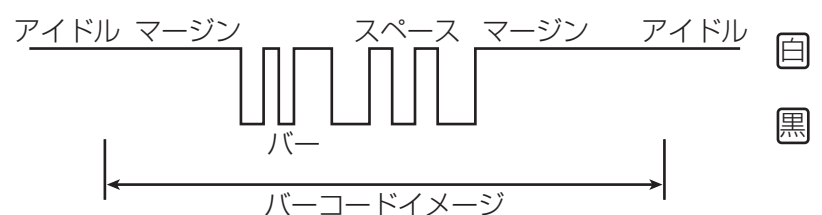
- ②出力信号レベル : ノーマル
 アイドル信号レベル: インバート
 での信号波形



- ③出力信号レベル : インバート
 アイドル信号レベル: ノーマル
 での信号波形



- ④出力信号レベル : インバート
 アイドル信号レベル: インバート
 での信号波形



動作モードの設定



インタープレット



トランスペアレント

「インタープレット」にすると、バーコードリーダは読み取ったバーメニューに基づいて設定変更を行います。
「トランスペアレント」にすると、バーコードリーダは読み取ったデータをそのまま送信して、設定変更を行いません。

CODE39 フォーマット変換機能の設定



変換機能を有効にする



変換機能を無効にする

この設定を有効にすると、バーコードリーダは読み取った Delta IBM/MSI/EAN/Code 11/Telepen/Code 16k Code 49/PDF417 コード等を CODE39 フル ASCII コードに変換して送信をします。

最小出力パルス時間の設定



200 μ sec



800 μ sec



400 μ sec



1 msec



600 μ sec



1.2 msec

この設定にてバーコードリーダが読み取ったバーコードデータの「最小エレメント」での出力パルスの時間を設定することが可能となります。

オーバーフローの設定



ナロー (Narrow)



ミディアム (Medium)



ワイド (Wide)

"ナロー" に設定した場合はオーバーフローは最小エレメントの 10 倍の長さに設定されます。
"ミディアム" に設定した場合は、オーバーフローは最小エレメントの 20 倍の長さに設定されます。
"ワイド" に設定した場合は、オーバーフローは最小エレメントの 30 倍の長さに設定されます。

USB-COM の設定

ハンドシェイクの設定



ノープロトコル (無手順)



RTS/CTS



XON/XOFF

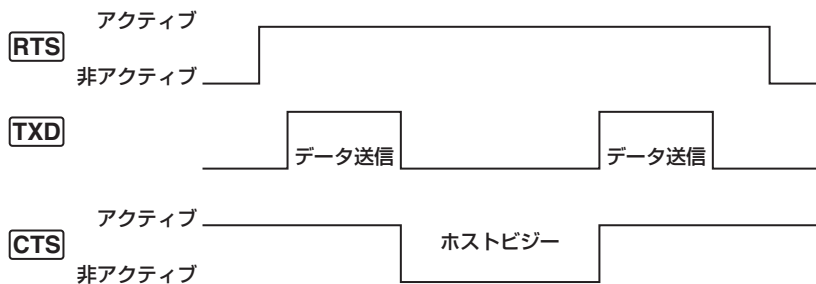
◎ RTS/CTS

この設定はバーコードリーダと接続機器間で以下の様な通信制御が可能となります。(下図タイミングチャート参照)

- ①バーコードリーダが起動すると RTS 線をアクティブにしてデータ送信を要求します。
- ② CTS 線がアクティブであれば、バーコードリーダはデータ送信を開始します。
- ③もし CTS 線が非アクティブになれば、バーコードリーダはデータ送信を中断します。(*1)
- ④ CTS 線が再びアクティブになれば、バーコードリーダはデータ送信を再開します。

(*1) データ送信中断時はバーコードリーダがバーコードの読み取りができない状態になりますので、注意が必要です。

もし、データ送信中断時にバーコードの読み取りを行うには "FIFO 機能" を有効にする必要があります。

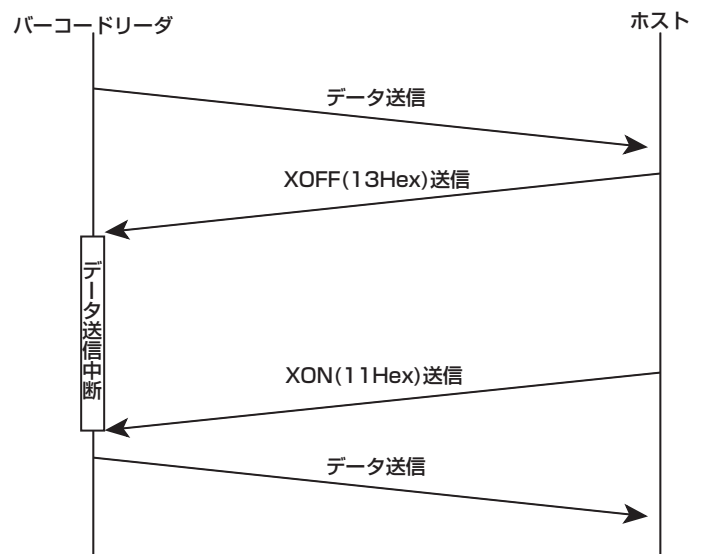


◎ XON/XOFF

この設定はバーコードリーダと接続機器間で以下の様な通信制御が可能となります。(右図通信フロー参照)

- ①バーコードリーダがデータ送信中に XOFF(13hex) キャラクタを受信すると、データの送信を中断します。(*1)
- ②バーコードリーダは XON(11hex) キャラクタを受信すると、データ送信を再開します。

(*1) データ送信中断時はバーコードリーダがバーコードの読み取りができない状態になりますので、注意が必要です。もし、データ送信中断時にバーコードの読み取りを行うには "FIFO 機能" を有効にする必要があります。



ACK/NAK プロトコルの設定



ACK/NAK を有効にする



ACK/NAK を無効にする

このプロトコルを使用する場合のバーコードリーダーの動作は以下の通りとなります。

- ①バーコードリーダーが読み取りデータを送信する。
- ②ホストが読み取りデータを正しく受信した場合は、バーコードリーダーに ACK(06hex) を送信する。
- ③バーコードリーダーが ACK を受信すると、メモリー内の読み取りデータを消去して、次の読み取りに移行する。
- ④ホストが読み取りデータを正しく受信できなかった場合は、NAK(15hex) を送信する。
- ⑤バーコードリーダーが NAK を受信すると、メモリー内の読み取りデータを再度ホストに送信する。
- ⑥バーコードリーダー読み取りデータの送信後、あるいはホストからのデータ受信後から "受信タイムアウト" 時間で設定された時間内に受信が行われなかった場合はブザー音を「プププ」と3回鳴らして、通信フェーズを強制終了して次の読み取りに移行する。



注意

バーコードリーダーを ACK/NAK プロトコルで使用する場合は、通信フェーズが終了するまでは次の読み取りに移行せず、トリガースイッチを押しても読み取り用の LED は点灯しません。また、このプロトコルを有効にする設定時は自動的に FIFO 機能の設定は無効となります。

FIFO 機能の設定



FIFO 機能を有効にする



FIFO 機能を無効にする

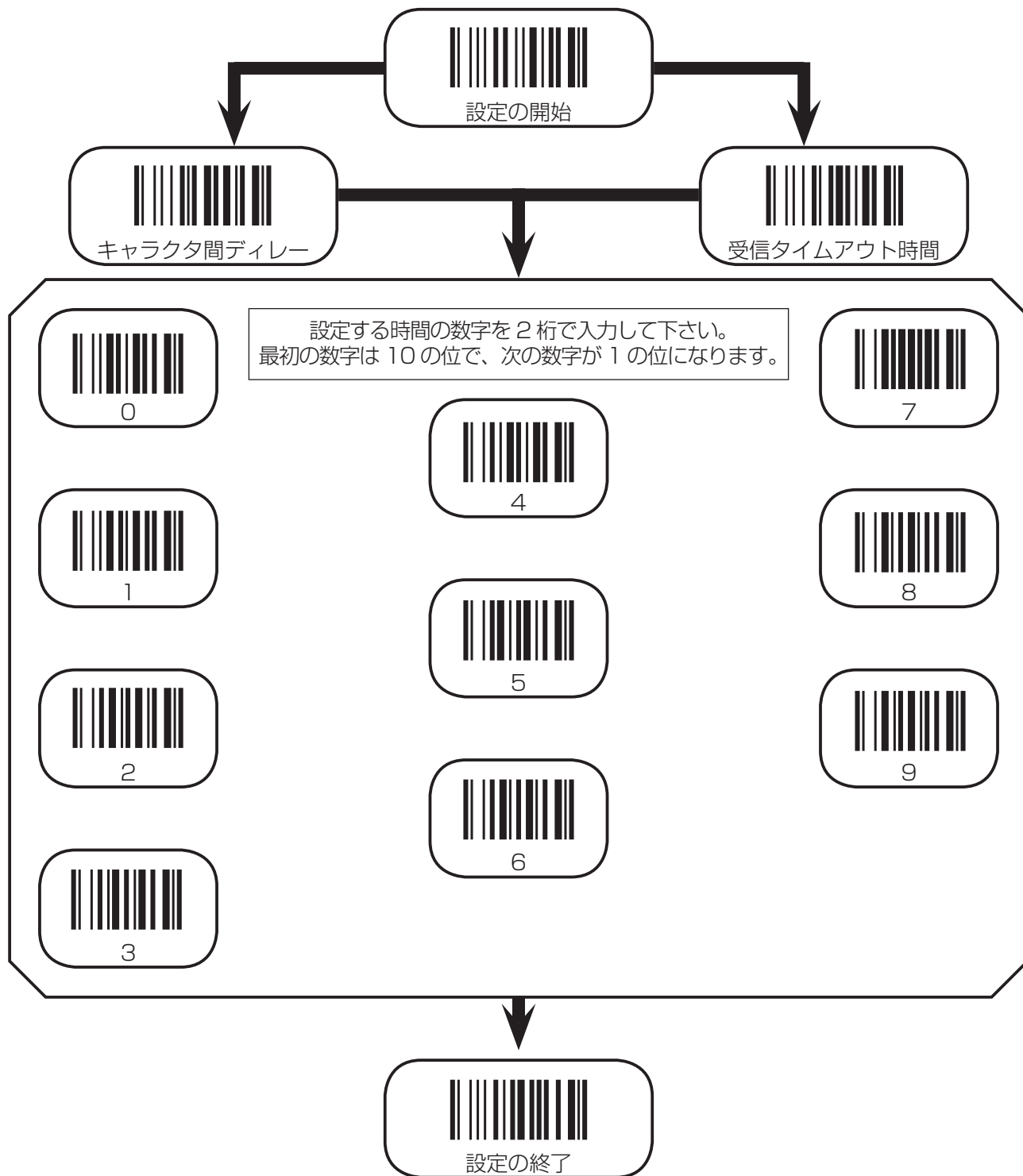
この機能を有効にすると、バーコードリーダーの読み取りデータがホストに送信できない時にバーコードリーダーが読み取りデータをバッファメモリーに保存して、ホスト側への通信が開始した時にメモリー内のデータを読み取りした順番に送信をする機能です。



注意

この機能が有効時のバッファメモリー容量は 185 キャラクタです。もし、それ以上の読み取りを行えば、送信バッファがいっぱいであることを示すブザー音を鳴らして読み取りデータをメモリー内に保存ができなくなりますので、このモードを使用する際はバッファメモリーがいっぱいになる前に送信が再開できる様に考慮する必要があります。

キャラクタ間ディレー時間 / 受信タイムアウト時間の設定



◎キャラクタ間ディレー

読み取りデータの各キャラクタ間にディレー（遅延）を発生させて、ホスト側で受信処理が遅い場合でも確実に受信を行うための機能です。

- 例) 時間 "00" はディレー無効
 時間 "01" は 1msec ディレー
 時間 "99" は 99msec ディレー

◎受信タイムアウト時間

通信による設定モード終了時にホストから設定モード終了コマンドが受信されなかった場合に設定し経過後、設定モードを強制終了して、それまでに設定したパラメータを無効にして、前のパラメータで起動させる機能で、数字2桁で時間設定をします。

- 例) 時間 "00" はタイムアウト無効
 時間 "01" は 0.1sec 後タイムアウト
 時間 "99" は 9.9sec 後タイムアウト

データフォーマットの設定

コード ID 付加機能の設定



コード ID 付加しない



コード ID 付加 (Datalogic 標準)



コード ID 付加 (AIM 標準)



コード ID 付加 (カスタム ID)

- ・"コード ID 無し" はコード ID を付加しないでデータを送信します。
- ・"Datalogic 標準" は右表のキャラクタを読み取りデータの前に付加してデータを送信します。
- ・"AIM 標準" も右表のキャラクタを読み取りデータの前に付加してデータを送信します。
- ・"カスタム" は次ページの"カスタムコード ID キャラクタ設定" で設定されたコード ID を読み取りデータの前に付加してデータを送信します。

コードシンボル	AIM標準	Datalogic	カスタム設定
2 of 5 インターリーブ]ly	N	
2 of 5 インダストリアル]Xy	P	
2 of 5 5バー]Sy	O	
2 of 5 3バー]Xy	Q	
EAN 8]E4	A	
EAN 13]E0	B	
UPC-A]Xy	C	
UPC-E]Xy	D	
EAN 8アドオン2]E5	J	
EAN 8アドオン5]E6	K	
EAN 13アドオン2]E1	L	
EAN 13アドオン5]E2	M	
UPC-Aアドオン2]Xy	F	
UPC-Aアドオン5]Xy	G	
UPC-Eアドオン2]Xy	H	
UPC-Eアドオン5]Xy	I	
Code 39]Ay	V	
Code 39フルASCII]Ay	W	
CODABAR]Fy	R	
ABC CODABAR]Xy	S	
Code 128]Cy	T	
EAN 128]Cy	k	
ISBT 128]C4	f	
Code93]Gy	U	
Code 32]Xy	X	
Code 11]Hy	b	
Code 49]Ty	q	
GS1 Databar Expanded Linear and Stacked]e0	t	
GS1 Databar Limited]e0	v	
GS1 Databar Linear and Stacked]e0	u	

カスタムコードIDキャラクタの設定



設定の開始



カスタムコードID設定

変更するコードIDキャラクタを選択します。



2/5 インターリーブ



2/5 インダストリアル



2/5 5バー



2/5 3バー



EAN8



EAN13



UPC-A



UPC-E



EAN8 アドオン 2



EAN13 アドオン 2



EAN8 アドオン 5



EAN13 アドオン 5



UPC-A アドオン 2



UPC-E アドオン 2



UPC-A アドオン 5



UPC-E アドオン 5



CODE39



CODABAR



CODE128











EAN128



CODE93

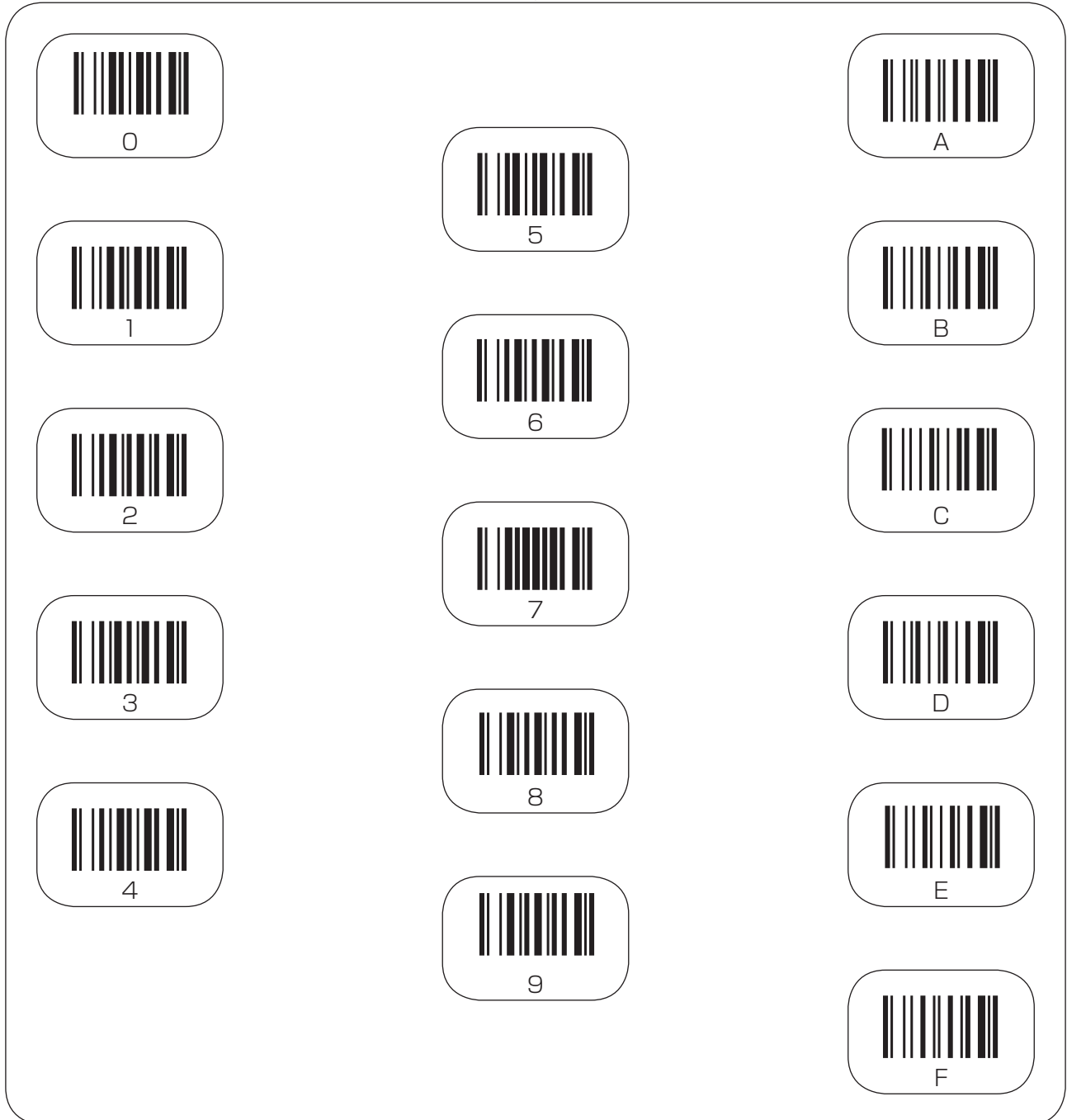
変更するコードID キャラクタを選択します。

 Code39 フル ASCII	 ISBT128	 Code11
 Code32	 GS1 Limited	 Code49
 GS1 Ext LIN and STK		 GS1 LIN and STK

登録するコード ID キャラクタを以下のテーブルを使用して数字 2 桁の hex コードにて入力を行います。登録可能なキャラクタは 57 ページの 00hex ~ 7Fhex で、1 つのコード ID に 2 キャラクタまで登録可能となっています。もし登録するキャラクタを 1 つにする場合は、最初に登録する ASCII キャラクタを入力して、その後 "FFhex" を入力すれば、1 キャラクタでの登録ができます。

例) "F5" で登録する場合 "46" と "35" を入力します。

"m" で登録する場合 "6D" と "FF" を入力します。



注意

一度設定変更をしたコード ID キャラクタを再度変更することはできませんので、その場合は一度コード ID キャラクタ付加機能の設定を "Datalogic 標準" に設定してその後、再度キャラクタの設定を行うようにして下さい。



キーボードウエッジでの特殊キーによるヘッダー・ターミネータの設定

ここでは、DOS/V パソコンの標準キーボード (101/106/109 キーボード) で入力を行う際に、使用しているアプリケーション上で様々な特殊キーをヘッダー・ターミネータとして使用して入力作業の省力化を行えます。ここではその特殊キーの登録方法を紹介します。

① 4 ページの設定でインターフェイスの設定を行う

② PC の電源を一度 OFF にして、再度起動する



PC の再起動の場合には、ハードウェアの初期化が行われない場合がありますので、一度電源を OFF にしてから再度 ON にしてハードウェアを完全に初期化して下さい。

③ 以下のバーコードを読ませる



④ キー配列表に従ってキーボードのキー配列の登録を行う

次頁の配列表の左側の数字の順序に従って、バーコードリーダーに特殊キーのキーボードの配列を記憶させます。(キーボードのそれぞれのキーを押してから、離れた時にバーコードリーダーのブザー音が 1 回鳴ります。最後の 28 番目のキーの登録完了時にはブザー音が 2 回鳴ります。)

- ・もしキーを離してもブザー音が鳴らない場合は再度キーをゆっくりと押して下さい。
- ・配列表の 1 から 4 までのキーについては必ず合致しているキーを押して下さい。5 以降のキーについては目的のキーを登録します。
- ・キー配列表の 1 から 28 のすべてのキーを登録完了までは、バーコードリーダーは読み取り動作ができませんので、登録作業を中断する場合には、バーコードリーダーのケーブルを PC から外して、バーコードリーダーを初期化して下さい。
- ・この設定で登録した配列は P3 の「設定を初期設定に戻す」で消去されます。



キー配列表

1	Shift		11	F5	[89hex]	21	PAGE UP	[93hex]
2	Alt		12	F6	[8Ahex]	22	PAGE DOWN	[94hex]
3	Ctrl		13	F7	[8Bhex]	23	↑	[95hex]
4	Back space		14	F8	[8Chex]	24	↓	[96hex]
5	Enter	[83hex]	15	F9	[8Dhex]	25	←	[97hex]
6	TAB	[84hex]	16	F10	[8Ehex]	26	→	[98hex]
7	F1	[85hex]	17	F11	[8Fhex]	27	ESC	[99hex]
8	F2	[86hex]	18	F12	[90hex]	28	CTRL	[9Ahex]
9	F3	[87hex]	19	HOME	[91hex]	29	SPACE	
10	F4	[88hex]	20	END	[92hex]			

⑤以下のバーコードを読ませて設定を終了する



登録した特殊キーをヘッダー・ターミネータとして使用する場合には P22 と P24 の「ヘッダー/ターミネータキャラクタの設定」で付加するキャラクタとして上記配列表の [XX hex] にてキャラクタの設定を行います。ここで登録した特殊キャラクタは、その他にも様々な付加キャラクタ（例：データフィールド調整キャラクタやフィールド区切りキャラクタ等）で使用することも可能です。

ヘッダーキャラクタの設定



ヘッダーキャラクタ無し



設定の開始



1 キャラクタを設定



2 キャラクタを設定



3 キャラクタを設定



4 キャラクタを設定



5 キャラクタを設定



6 キャラクタを設定



7 キャラクタを設定



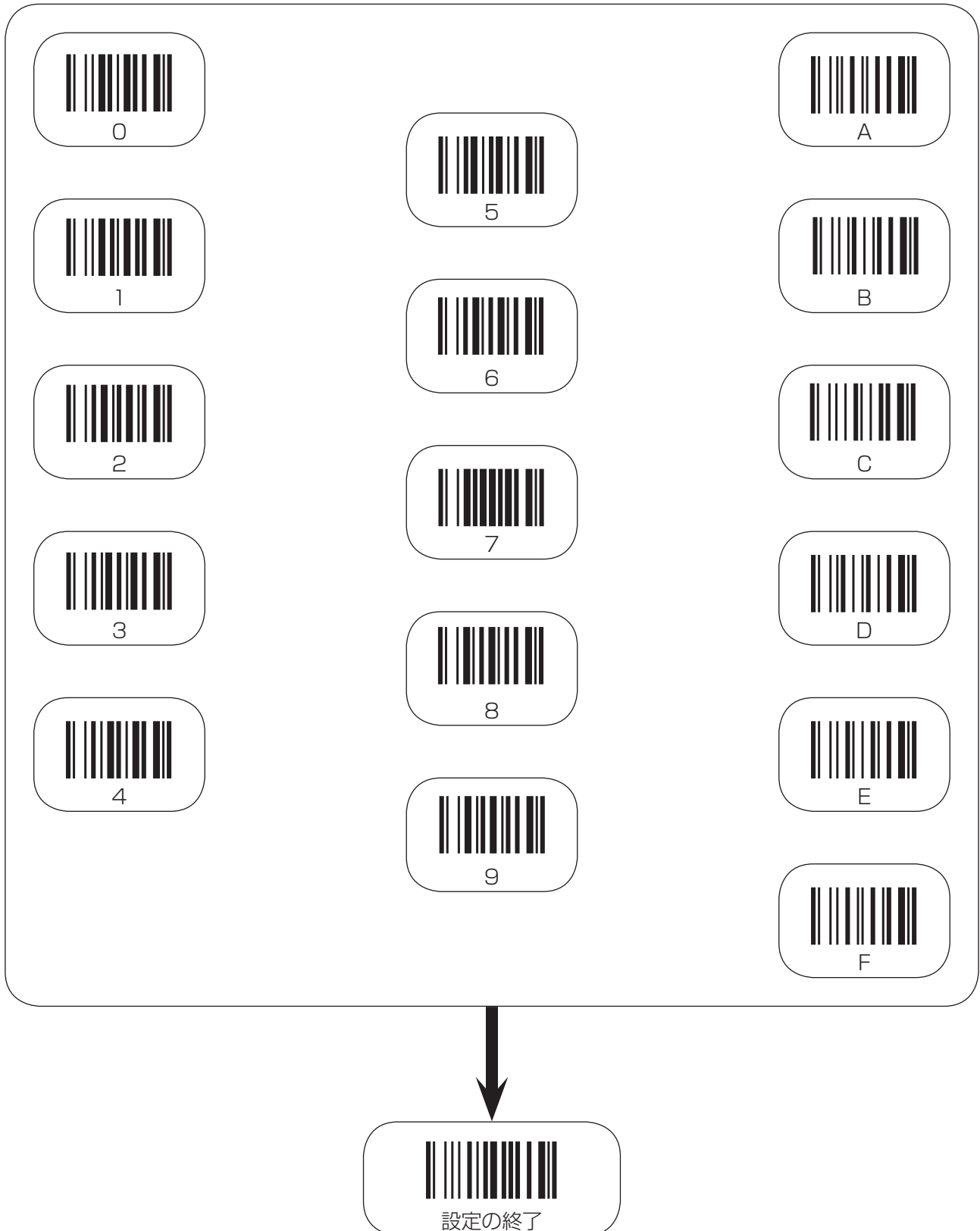
8 キャラクタを設定

次頁へ続く

登録する各キャラクタを以下のテーブルを使用して数字 2 桁の hex コードにて入力を行います。
登録可能なキャラクタは RS232 インターフェイスの場合は 57 ページの 00hex ~ 7Fhex
で、キーボードウエッジインターフェイスの場合は 57 ページの 00hex ~ 7Fhex と 83hex
~ 98hex となっています。

例) "F5" で登録する場合 "46" と "35" を入力します。

"m" で登録する場合 "6D" を入力します。



ターミネータキャラクタの設定



ターミネータキャラクタ無し



設定の開始



1キャラクタを設定



2キャラクタを設定



3キャラクタを設定



4キャラクタを設定



5キャラクタを設定



6キャラクタを設定



7キャラクタを設定



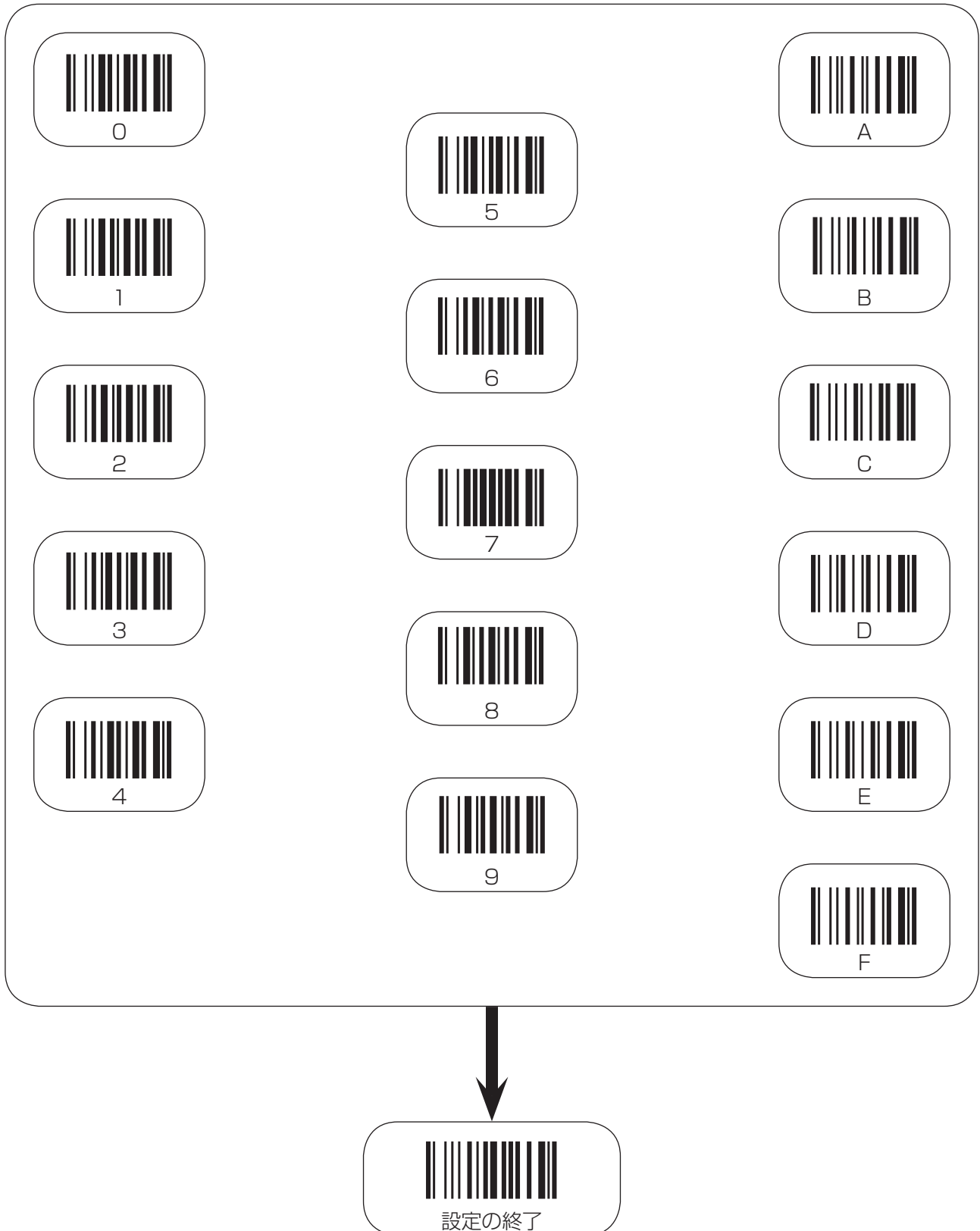
8キャラクタを設定

次頁へ続く

登録する各キャラクタを以下のテーブルを使用して数字 2 桁の hex コードにて入力を行います。
登録可能なキャラクタは RS232 インターフェイスの場合は 57 ページの 00hex ~ 7Fhex
で、キーボードウエッジインターフェイスの場合は 57 ページの 00hex ~ 7Fhex と 83hex
~ 98hex となっています。

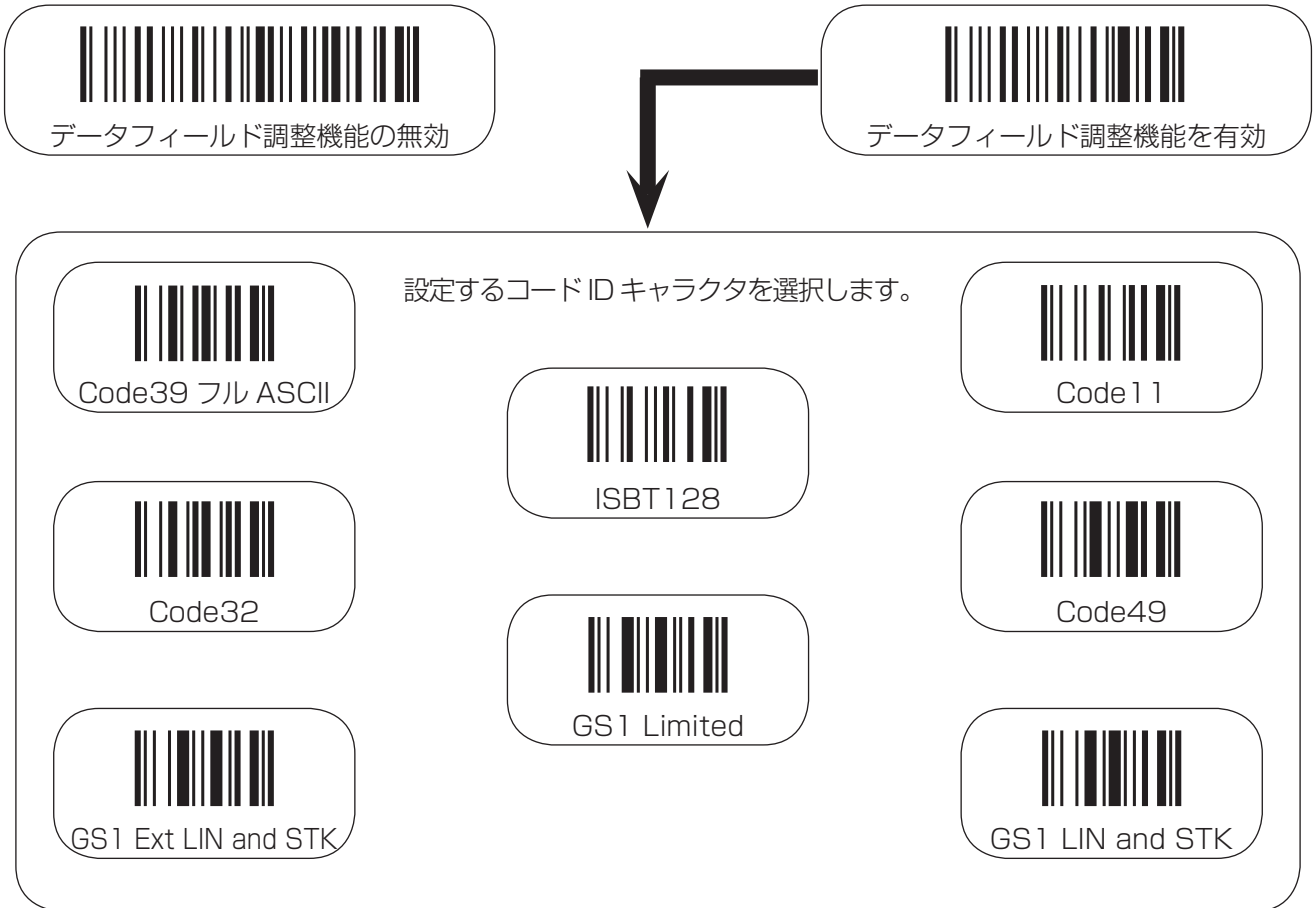
例) "F5" で登録する場合 "46" と "35" を入力します。

"m" で登録する場合 "6D" を入力します。
























データフィールド調整機能の設定

データフィールド調整機能とは、読み取りバーコードデータに調整用キャラクタを付加したり、バーコードデータの一部を削除する機能で、各コードシンボル毎に設定が可能です。そして、調整キャラクタを付加する場合はバーコードデータの前と後ろのどちらに何桁付加するのか、又はバーコードデータを削除する場合もデータの先頭部と最後部のどちらから何桁削除するのかの設定が可能です。

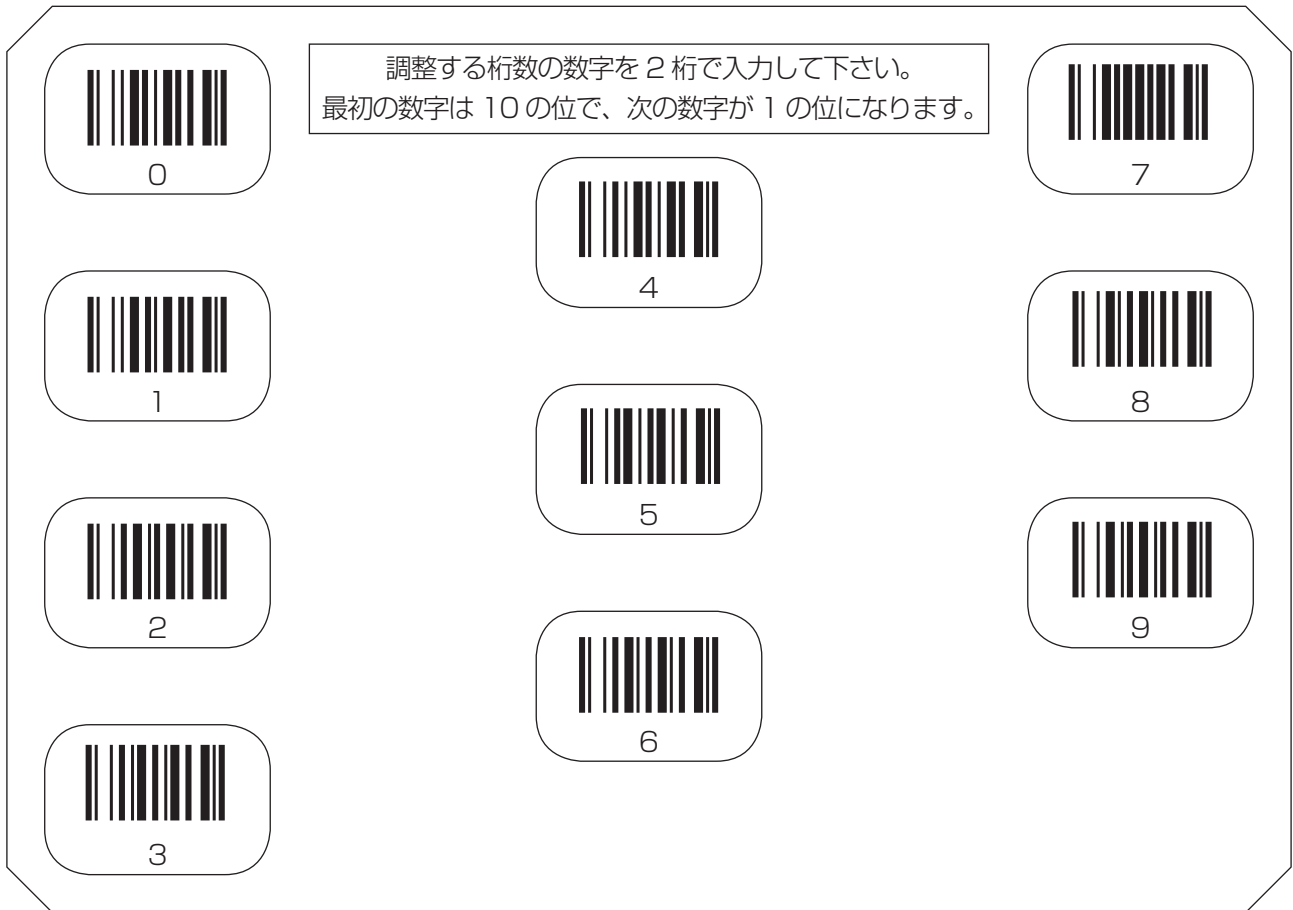


設定するコードID キャラクタを選択します。

 2/5 インターリーブ	 UPC-E	 UPC-A アドオン 5
 2/5 インダストリアル	 EAN8 アドオン 2	 UPC-E アドオン 5
 2/5 5 バー	 EAN13 アドオン 2	 CODE39
 2/5 3 バー	 EAN8 アドオン 5	 CODABAR
 EAN8	 EAN13 アドオン 5	 CODE128
 EAN13	 UPC-A アドオン 2	 EAN128
 UPC-A	 UPC-E アドオン 2	 CODE93



次頁へ続く

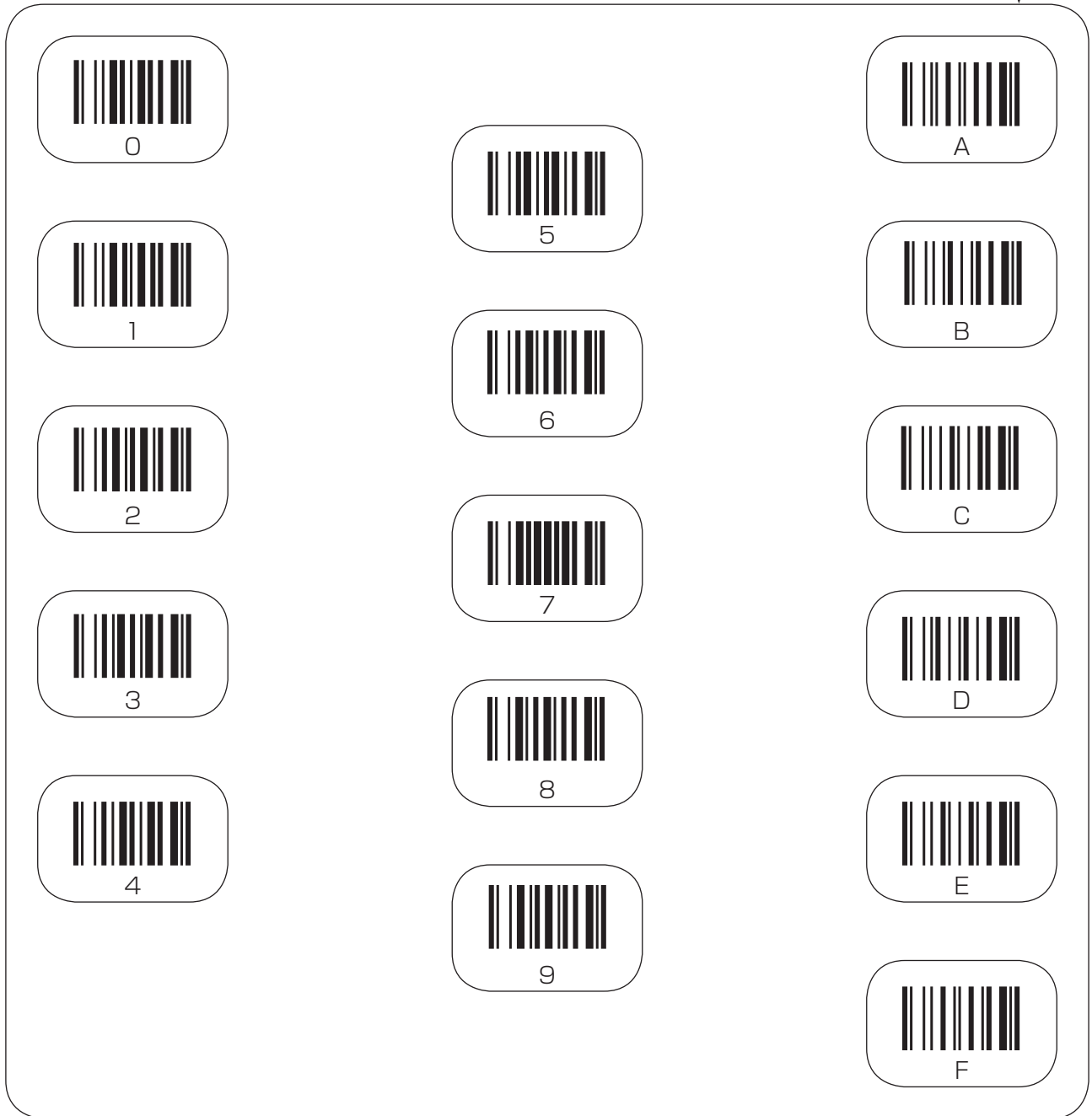


調整用キャラクタの設定



設定する各キャラクタを以下のテーブルを使用して数字 2 桁の hex コードにて入力します。
登録可能なキャラクタは 00hex ~ 7Fhex となっています。

例) "F5" で登録する場合・・・"46" と "35" を入力します。



桁数付加機能の設定の設定



桁数を付加しない



桁数を付加する (可変桁数)



桁数を付加する (4桁固定)

"桁数を付加しない" では読み取り桁数を付加しないでデータを送信します。

"桁数を付加する (可変桁数)" では読み取りバーコードの桁数をヘッダーキャラクタと読み取りデータの間
に付加してデータを送信します。(桁数はデータ長調整機能の処理後の桁数で出力されます。)

"桁数を付加する (4桁固定)" では読み取りバーコードの桁数をヘッダーキャラクタと読み取りデータの間
に付加して4桁データとして送信します。

データキャラクタ置換機能の設定

データキャラクタ置換機能とは、読み取りデータの中に指定されたキャラクタが存在する場合には、設定さ
れた置換用キャラクタに置き換えてデータを出力する機能で、各コードシンボル毎に設定が可能です。



データキャラクタ置換機能の無効



データキャラクタ置換機能の有効

置換機能の指定キャラクタの設定



1番目のキャラクタ























2番目のキャラクタ



3番目のキャラクタ

次頁へ続く

設定するコードID キャラクタを選択します。









 2/5 インターリーブ	 UPC-E	 UPC-A アドオン 5
 2/5 インダストリアル	 EAN8 アドオン 2	 UPC-E アドオン 5
 2/5 5 バー	 EAN13 アドオン 2	 CODE39
 2/5 3 バー	 EAN8 アドオン 5	 CODABAR
 EAN8	 EAN13 アドオン 5	 CODE128
 EAN13	 UPC-A アドオン 2	 EAN128
 UPC-A	 UPC-E アドオン 2	 CODE93



次頁へ続く



設定するコードID キャラクタを選択します。

 Code39 フル ASCII	 ISBT128	 Code11
 Code32	 GS1 Limited	 Code49
 GS1 Ext LIN and STK		 GS1 LIN and STK











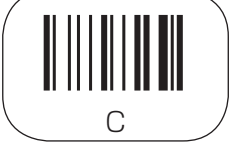







次頁へ続く

対象のキャラクタを以下のテーブルを使用して数字 2 桁の hex コードにて入力を行います。

登録可能なキャラクタは 00hex ~ 7Fhex となっています。

例) "F" で登録する場合 "46" と入力します。



 0	 5	 A
 1	 6	 B
 2	 7	 C
 3	 8	 D
 4	 9	 E
		 F

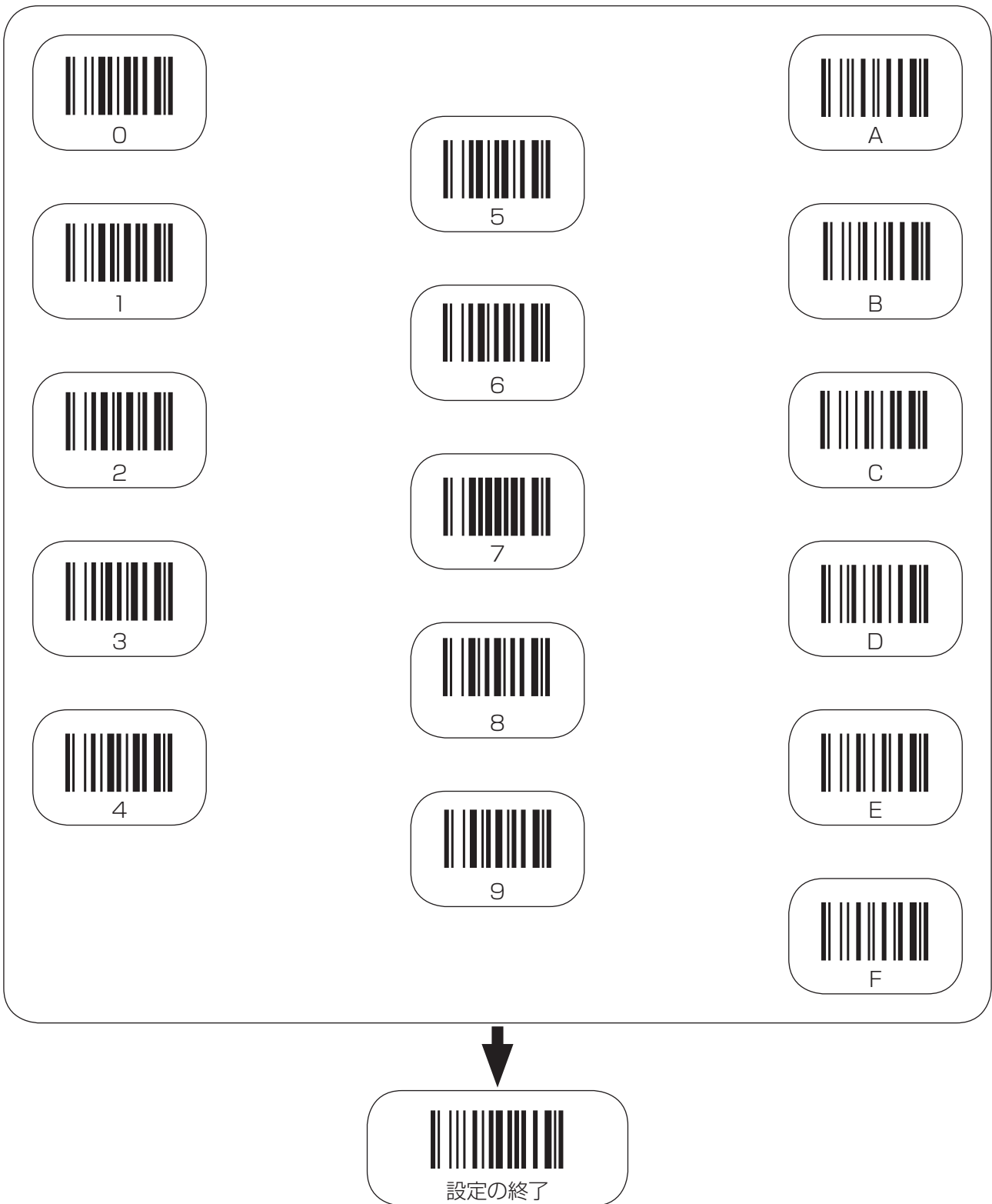


次頁へ続く

置換するキャラクタを以下のテーブルを使用して数字 2 桁の hex コードにて入力を行います。

登録可能なキャラクタは 00hex ~ 7Fhex となっています。

例) "5" で登録する場合・・・"35" と入力します。



パワーセーブ機能の設定

スタンバイ機能の設定 (CCD リーダのみ有効)



スタンバイ機能を有効にする



スタンバイ機能を無効にする

この機能を有効にすると、バーコードリーダは読み取りをしていない時に CCD 受光センサーへの電源供給をカットします。そして、トリガースイッチを押してから数 msec 後に再度電源供給を開始します。この機能を無効にすると、バーコードリーダは常に CCD 受光センサーへの電源供給を行います。



注意

この機能を無効にすると自動的にスリープモードの設定が無効となります。

読み取りスキャン速度の設定 (CCD リーダのみ有効)



1/4 速度スキャン



1/2 速度スキャン



高速度スキャン

この設定で 1/4 速度スキャンと 1/2 速度スキャンの設定にすれば、出荷時設定の時と比較して、低消費電流での動作となりますが、スキャン速度が遅い分、読み取り速度が遅くなります。

スリープモード / USB サスペンド機能の設定



スリープモードを有効にする



スリープモードを無効にする

この設定を有効にすると、以下の条件をすべて満足した時に、バーコードリーダはマイクロプロセッサの電源供給をカットして "スリープモード" または USB キーボードでは "サスペンドモード" に入ります。そして、トリガースイッチを押すと、このモードから抜け出します。

- ・ホストからのコマンド受信がない。
- ・ホストへのデータ送信がない。
- ・スリープモード起動時間で設定した時間が経過した



注意

このモードを有効にすると、自動的にスタンバイ機能の設定が有効となります。

スリープモード起動時間の設定



起動時間は 0sec ~ 9.9sec までを 0.1sec 単位で設定が可能です。



リーディングパラメータの設定

ハンドヘルドモードの動作設定



ハードウェアトリガー



ソフトウェアトリガー



常時 ON



バー検知モード* 1



ハードウェアトリガーレディ* 1

* 1 CCD スキャナのみ有効

「ハードウェアトリガー」に設定するとトリガースイッチを押している間は、読み取り状態となりトリガースイッチを OFF にすると待機状態となります。

「ソフトウェアトリガー」に設定すると自動的に読み取り状態と待機状態を繰り返します。この時の読み取りと待機の時間は P43 の「光源の ON と OFF の時間の設定」にて設定が可能です。

「常時 ON」に設定すると、常に読み取り用の光源が ON となります。

「バー検知モード」は通常は読み取り用光源が OFF となり、読み取りエリア内にバーコードらしきものが近づくとそれに反応して読み取り用光源を ON にして、読み取り状態となります。

「ハードウェアトリガーレディ」に設定すると「バー検知モード」と同様の動作をしますが、読み取り用光源が ON になっても、トリガースイッチを押さない限り、読み取り動作は行いません。

スタンド認知機能内蔵スキャナの動作設定 (HERON/HERON-G/GRYPHON)



ハードウェアトリガー



ソフトウェアトリガー



常時 ON



バー検知モード

「ハードウェアトリガー」に設定するとスタンドに取り付けた場合でも、自動読み取りモードにはならず、トリガースイッチを押している間は、読み取り状態となりトリガースイッチを OFF にすると待機状態となります。

「ソフトウェアトリガー」に設定すると自動的に読み取り状態と待機状態を繰り返します。この時の読み取りと待機の時間は P43 の「光源の ON と OFF の時間の設定」にて設定が可能です。

「常時 ON」に設定すると、常に読み取り用の光源が ON となります。

「バー検知モード」は通常は読み取り用光源が OFF となり、読み取りエリア内にバーコードらしきものが近づくとそれに反応して読み取り用光源を ON にして、読み取り状態となります。

読み取りサイクルの設定



シングルリーディング



マルチリーディング

「シングルリーディング」に設定するとバーコードリーダーはバーコードの読み取りが完了すると、読み取り用 LED を消灯して待機状態となります。(この場合、トリガー信号の設定で「パルスモード」に設定していても、読み取り用光源は消灯します。)「マルチリーディング」に設定するとバーコードリーダーはバーコードの読み取りが完了しても、読み取り用光源を点灯したままで、読み取り状態を持続させます。

トリガースイッチの動作の設定 ("ハードウェアトリガー" 設定時のみ)



レベルモード



パルスモード

「レベルモード」に設定するとバーコードリーダーはトリガースイッチを押している間は、読み取り状態となりトリガースイッチを OFF にすると待機状態となります。「パルスモード」に設定するとバーコードリーダーは最初にトリガースイッチを押すと、読み取り状態となりトリガースイッチを OFF にしても、その状態が継続します。待機状態にする場合は再度トリガースイッチを押すことによって待機状態となり、再度トリガースイッチを押すまで待機状態が継続します。

スタンド認識ブザー音の設定 (HERON/HERON-G/GRYPHON)



ブザー音無効



ブザー音有効

スタンド認識ブザー音とは、HERON/HERON-G/GRYPHON でのみ使用が可能な機能で、自動読み取り用スタンドにバーコードリーダーを取り付けると、自動的に読み取りモードをスタンドでの自動読み取りモードに変更する場合にブザー音を鳴らして、動作モードの変更を知らせる機能です。

レーザスキャナ照準機能の設定



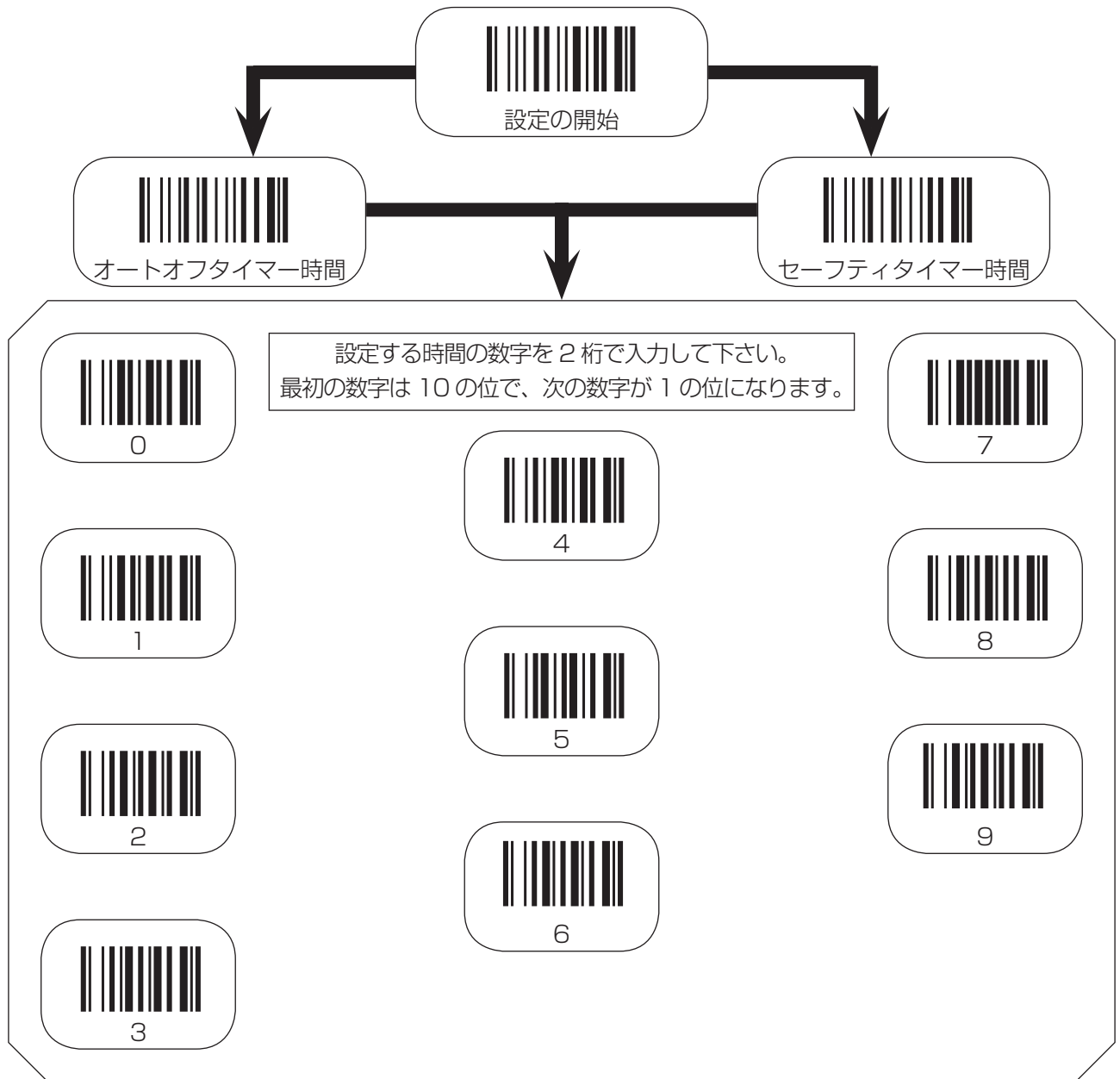
照準機能無効



照準機能有効

レーザスキャナ照準機能とは、PowerScanD8300 と FIRESCAN でのみ使用が可能な機能で、バーコードリーダーが読み取りの開始時だけスキャン用のモータを停止して、レーザビームを点照射状態にして、バーコードリーダーがどの部分の読み取りをするのかポイント表示にて知らせる機能です。この照準機能を無効にすると、バーコードリーダーは読み取り開始時からスキャン用モータを駆動させて、線表示となります。

オートオフタイマー時間の設定とセーフティタイマー時間の設定



◎オートオフタイマー時間の設定

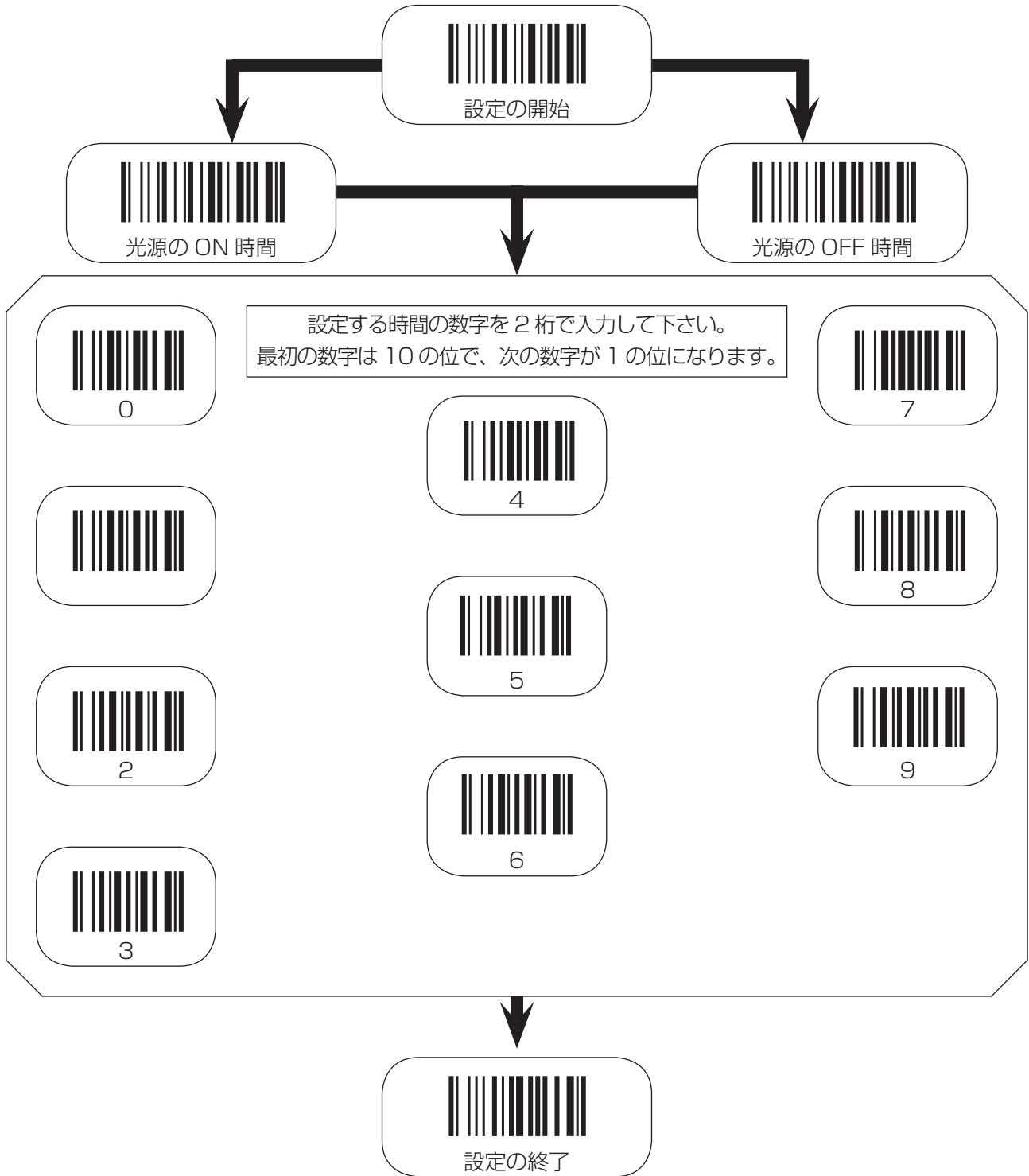
このタイマーは「トリガースイッチの動作の設定」で「パルス動作」に設定した場合のみ有効となる設定で、読み取りLEDが点灯してから自動的に読み取り待機状態に入るまでの時間を設定します。設定は1sec～99secまで1sec単位で可能です。（設定「00」はタイムアウト時間を無効にします。）

例) 時間「01」は0.1sec間LEDが点灯
時間「99」は9.9sec間LEDが点灯

◎セーフティタイマー時間の設定

このタイマーは「読み取りサイクル」の設定で「マルチリーディング」に設定した場合のみ有効となるタイマーで、バーコードリーダーが同一バーコードの2度読み防止をする時間の設定をします。バーコードリーダーがバーコードの読み取り完了後、読み取ったバーコードデータと同一のデータが読み取りエリア内にある場合、設定された時間が経過するかバーコードが存在しない箇所を400msecスキャンするまで読み取りをしません。しかし、バーコードリーダーが違うバーコードデータの読み取りをする際は直ぐに読み取り動作を行います。設定は0.1sec～9.9secまで0.1sec単位で可能です。（「00」に設定するとタイマーの時間が無限大となり、同一バーコードが存在しない箇所を400msecスキャンするまで同一バーコードの読み取りができない状態になります。）

光源の ON と OFF の時間の設定 (" ソフトウェアトリガー使用 " 設定時のみ)



◎光源の ON 時間の設定

バーコードリーダがトリガースイッチを使用しない場合の LED の点灯している時間を設定します。

例) 時間 "01" は 0.1sec 間 LED が点灯
時間 "99" は 9.9sec 間 LED が点灯

◎光源の OFF 時間の設定

バーコードリーダがトリガースイッチを使用しない場合の LED の消灯している時間を設定します。

例) 時間 "01" は 0.1sec 間 LED が点灯
時間 "99" は 9.9sec 間 LED が点灯

読み取りスタンドでのスポット光設定 (HERON/HERON-G/GRYPHON)



スポット光点灯を有効



スポット光点灯を無効

読み取りスタンド使用時に読み取り完了のスポット光の点灯をさせるかどうかの設定を行います。

読み取りスポット光の点灯時間の設定



点灯無効



短時間点灯



標準点灯



長時間点灯

読み取り時のグリーンスポット光の点灯は GRYPHON や HERON または HERON-G でのみ使用が可能な機能です。

ブザー音量の設定



音量 (小)



音量 (中)



音量 (大)



音量 (最大)

ブザー音程の設定



音程 1



音程 2



音程 3



音程 4

ブザー音タイプの設定



モノトーン



パルス音

ブザー音長の設定



ブザー音が長い



ブザー音が短い

デコーディングパラメータの設定

インク滲み読み機能の設定



インク滲み読み機能を有効にする



インク滲み読み機能を無効にする

この機能を有効にするとインクジェットプリンタ等で印字された滲み(にじみ)のあるバーコードの読み取りが改善されます。

オーバーフローコントロール機能の設定



コントロール機能を有効にする



コントロール機能を無効にする

この機能を有効にするとラベルサイズが小さくて、余白マージンが少ないラベルの読み取りが改善されます。



注意

2 of 5 コード、CODE128、CODE93 の場合、このコマンドは機能しません。

キャラクタ間ギャップコントロール機能の設定



コントロール機能を有効にする



コントロール機能を無効にする

この機能を有効にすると CODE39 や CODABAR コードに存在するキャラクタ間ギャップとスペースを判別して読み取りを行います。

デコード一致回数の設定



デコード一致回数 0



デコード一致回数 2(3 回一致)



デコード一致回数 1(2 回一致)



デコード一致回数 3(4 回一致)

このデコード一致回数を 1 以上の設定にすると、バーコードリーダーは内部でバーコードデータを設定された回数だけデータの照合が完了した時にバーコードデータを出力します。つまり、読み取りが不安定な場合での誤読等を防ぎ、データの信頼性が高まりますが、回数が増えればその分だけ読み取りの速度が遅くなるようになります。

読み取りバーコードの設定



注意

読み取りバーコードの設定を始める前に

◎読み取りバーコードの設定は最大で5つのバーコードの登録が可能です。但し、Gryphonは初期設定値で4つの設定が登録されていますので、以降のメニューで設定を変更する時にエラーが出た場合には、使用しないバーコードシンボルの設定を無効にする必要があります。特に同一シンボルでの設定変更の際は必ず、そのバーコードシンボルの設定を無効にしてから、設定変更を行う様にして下さい。



全てのバーコード設定を無効

◎もし、設定変更中にエラーのブザー音が鳴り、バーコードの読み取りができない状態になった時は、以下の「設定終了」バーコードを読ませて、一度設定プログラムを終了させてから再度設定を行って下さい。またそれでも設定プログラムが正常に動作しない場合は一度電源をOFFにして、再度電源をONにしてから設定変更を行って下さい。



設定を終了する

CODE39 コードの設定



全てのCODE39設定を無効

読み取りコードの設定



CODE39std CD 無し読み取り



CODE39std CD 有り送信禁止



CODE39std CD 有り送信許可



CODE39 フル ASCII CD 無し



CODE39 フル ASCII CD 有り送信禁止



CODE39 フル ASCII CD 有り送信許可



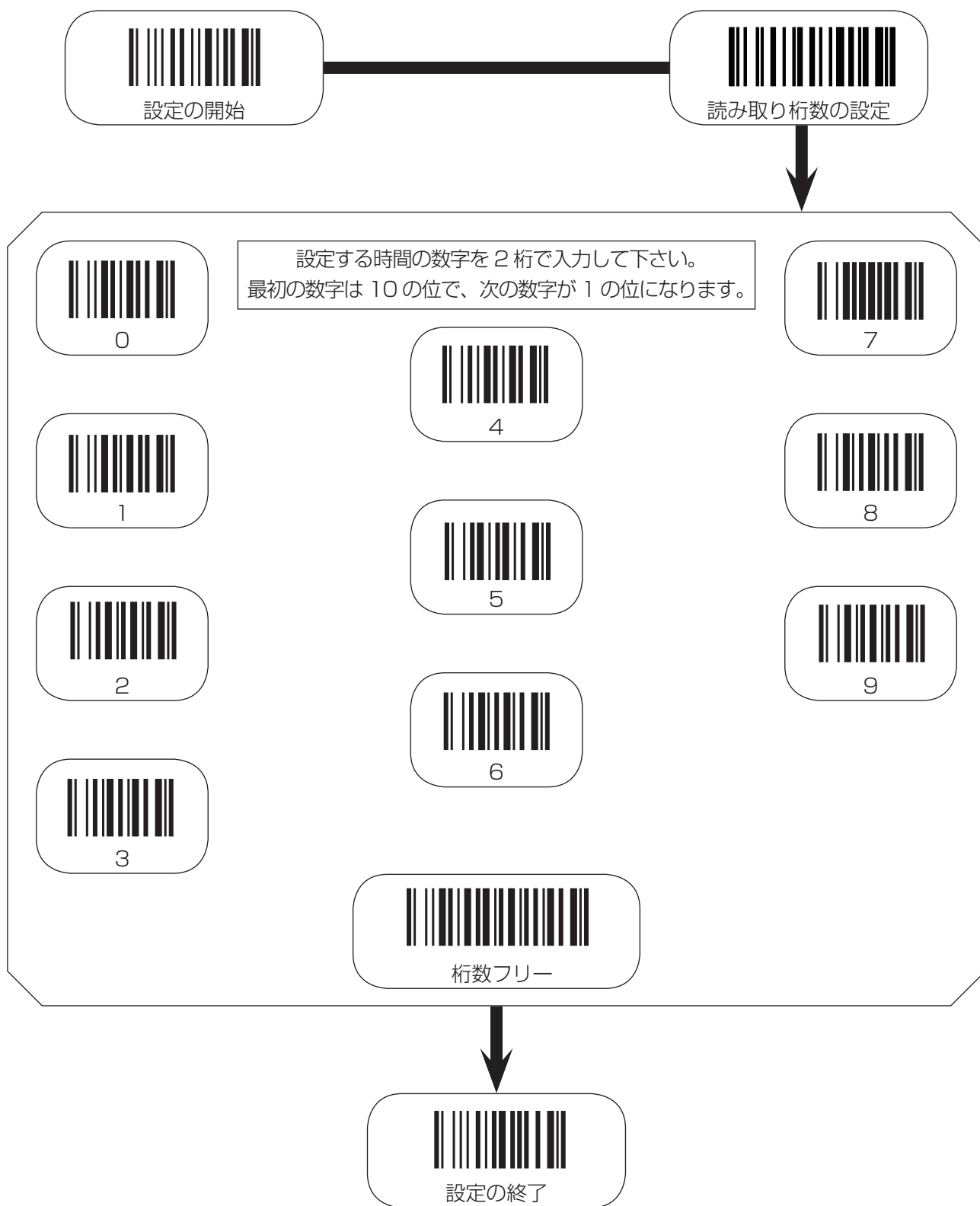
CODE32 コードの読み取り

● CODE39 コードの読み取り桁数の設定

CODE39 コードのスタンダードとフル ASCII コードに設定した場合は以下の読み取り桁数の設定が必要です。

- ・ 桁数設定は最小桁数と最大桁数の数字をそれぞれ 2 桁の数字で入力します。
- ・ 最小桁数は 01 から、最大桁数は 99 までの設定が可能です。
- ・ 桁数を固定する場合は最小 / 最大桁数に同一の数値を入力します。
- ・ 桁数フリーの設定は "0199" の設定と同じ設定となります。

例) 最小 :2 最大 :25 で設定する場合は、"0225" と入力します。



EAN/UPC コードの設定

読み取りバーコードの設定



全ての EAN/UPC 設定を無効



EAN/UPC アドオン無しの読み取り



EAN8/13 アドオン無しの読み取り



EAN8/13 アドオン 2 の読み取り



UPC-A/E アドオン無しの読み取り



UPC-A/E アドオン 2 の読み取り



全ての EAN/UPC の読み取り



EAN/UPC アドオン有りの読み取り



EAN8/13 アドオン有りの読み取り



EAN8/13 アドオン 5 の読み取り



UPC-A/E アドオン有りの読み取り



UPC-A/E アドオン 5 の読み取り

チェックデジット の設定



EAN8 チェックデジット送信禁止



EAN13 チェックデジット送信禁止



UPC-A チェックデジット送信禁止



UPC-E チェックデジット送信禁止



EAN8 チェックデジット送信許可



EAN13 チェックデジット送信許可



UPC-A チェックデジット送信許可



UPC-E チェックデジット送信許可

コード変換機能の設定



UPC-E から UPC-A に変換する



UPC-E から EAN13 に変換する

これらの変換は以下のゼロインサートフォーマットに基づいて行われます。

元のバーコードデータを以下のフォーマットとした場合、

0 a1 a2 a3 a4 a5 a6 CD (a1 ~ a6 はデータ、CD はチェックデジット)

変換フォーマットは a6 の値によって以下の様に変化をします。

a6=0 ~ 2 の場合 0 a1 a2 a6 0 0 0 0 a3 a4 a5 CD

a6=3 の場合 0 a1 a2 a3 0 0 0 0 0 a4 a5 CD

a6=4 の場合 0 a1 a2 a3 a4 0 0 0 0 0 a5 CD

a6=5 ~ 9 の場合 0 a1 a2 a3 a4 a5 0 0 0 0 a6 CD



UPC-A から EAN13 に変換する



EAN8 から EAN13 に変換する

これらの変換は以下のフォーマットに基づいて行われます。

UPC-A から EAN13 に変換する場合

◎データの先頭に 0 を付加する

EAN8 から EAN13 に変換する場合

◎データの先頭に 0 を 5 つ付加する



ISBN コードに変換する



ISSN コードに変換する



ISBN と ISSN に変換する



ISBN と ISSN に変換しない

2 of 5 コードの設定



全ての 2 of 5 設定を無効

読み取りバーコードの設定

● 2 of 5 コードの設定

2 of 5 コードの設定には以下の読み取り桁数の設定が必要です。

(設定方法) 設定の開始→読み取りコードの設定→読み取り桁数の設定→設定の終了

- ・桁数設定は最小桁数と最大桁数の数字をそれぞれ 2 桁の数字で入力します。
- ・最小桁数は 01 から、最大桁数は 99 までの設定が可能です。
- ・桁数を固定する場合は最小 / 最大桁数に同一の数値を入力します。
- ・桁数フリーの設定は "0199" の設定と同じ設定となります。

例) 最小 :2 最大 :25 で設定する場合は、"0225" と入力します。



設定の開始



インターリーブ 2 of 5 CD 無し



インターリーブ 2 of 5 CD 有り送信許可



2 of 5 5バー CD 有り送信禁止



インターリーブ 2 of 5 CD 有り送信許可



インターリーブ 2 of 5 CD 有り送信許可



2 of 5 3バー CD 有り送信禁止

読み取りバーコードの設定



インターリーブ 2 of 5 CD 有り送信禁止



2 of 5 5バー CD 無し



2 of 5 5バー CD 有り送信許可



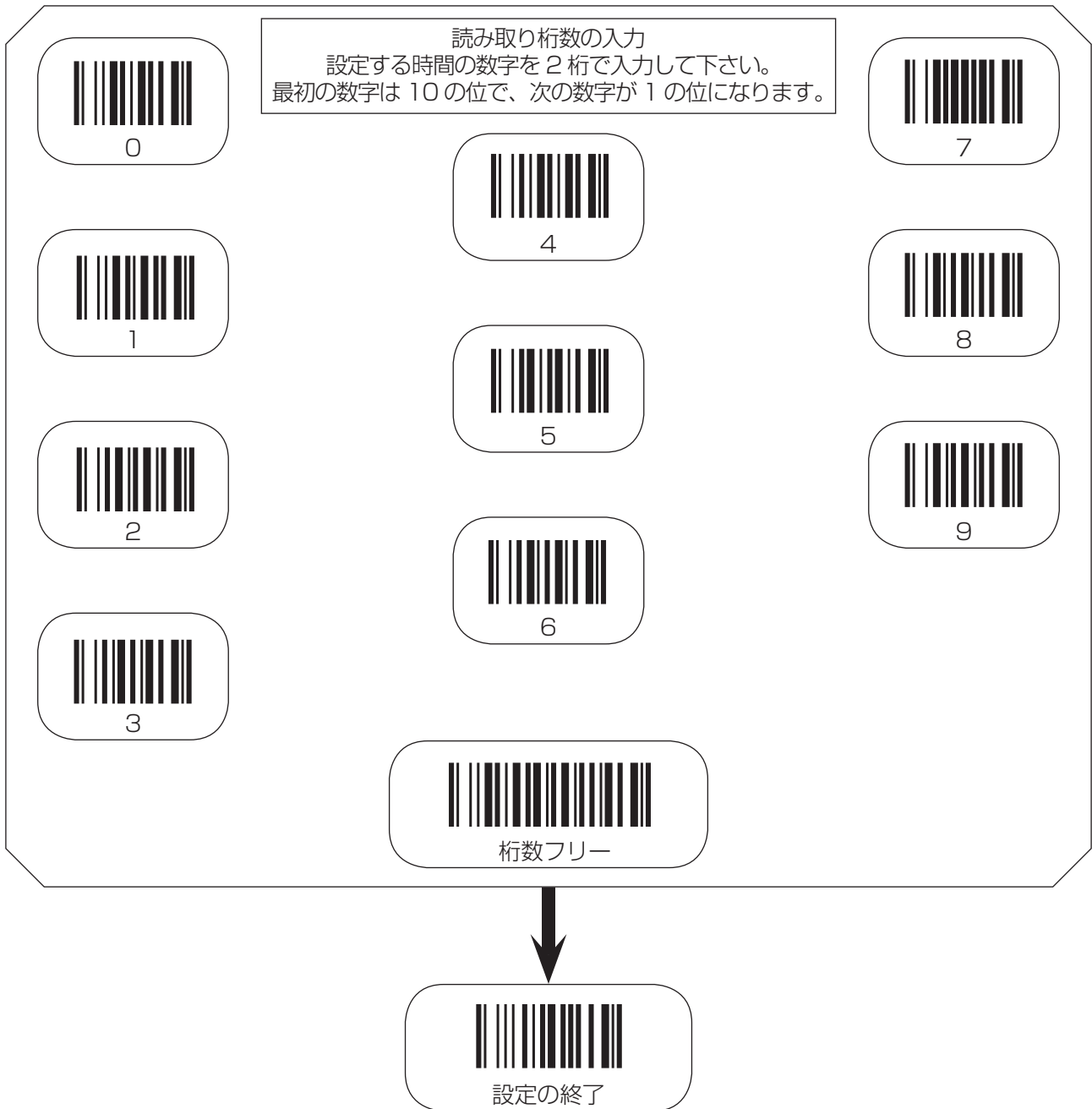
インターリーブ 2 of 5 CD 有り送信禁止



2 of 5 3バー CD 無し



2 of 5 3バー CD 有り送信許可



- ・ 2 of 5 インターリーブコードの読み取り桁数は必ず偶数にて入力して下さい。
- ・ このシンボルで桁数をフリーにすると読み取りの際に桁落ちする可能性があるため、極力桁数を固定にして使用することを推奨致します。

CODABAR コードの設定



全ての CODABAR 設定を無効

読み取りコードの設定



CODABAR S/S 無し読み取り



CODABAR S/S 無し送信読み取り



CODABAR S/S 有り読み取り



CODABAR S/S 有り送信読み取り



ABC CODABAR の読み取り

● CODABAR コードの設定について

上記コード設定のコメント行は以下の内容となります。

- ・ S/S 無し スタート/ストップコードの等価チェック無し、スタート/ストップコード送信禁止
- ・ S/S 無し送信 スタート/ストップコードの等価チェック無し、スタート/ストップコード送信許可
- ・ S/S 有り スタート/ストップコードの等価チェック有り、スタート/ストップコード送信禁止
- ・ S/S 有り送信 スタート/ストップコードの等価チェック有り、スタート/ストップコード送信許可



注意

ABC CODABAR は、スタート/ストップコードの等価チェック無し、スタート/ストップコード送信許可にて設定されます。



スタート/ストップコードを大文字で出力

スタート/ストップコードの設定



スタート/ストップコードを小文字で出力

● スタート/ストップコードの設定での注意事項

バーコードリーダーをキーボードウエッジインターフェイスで使用している場合、この設定でスタート/ストップコードの設定を行っても、Caps Lock 機能の状態によって、実際に送信されるデータの形式が変化しますので、キーボードウエッジインターフェイスを使用する場合には注意が必要です。

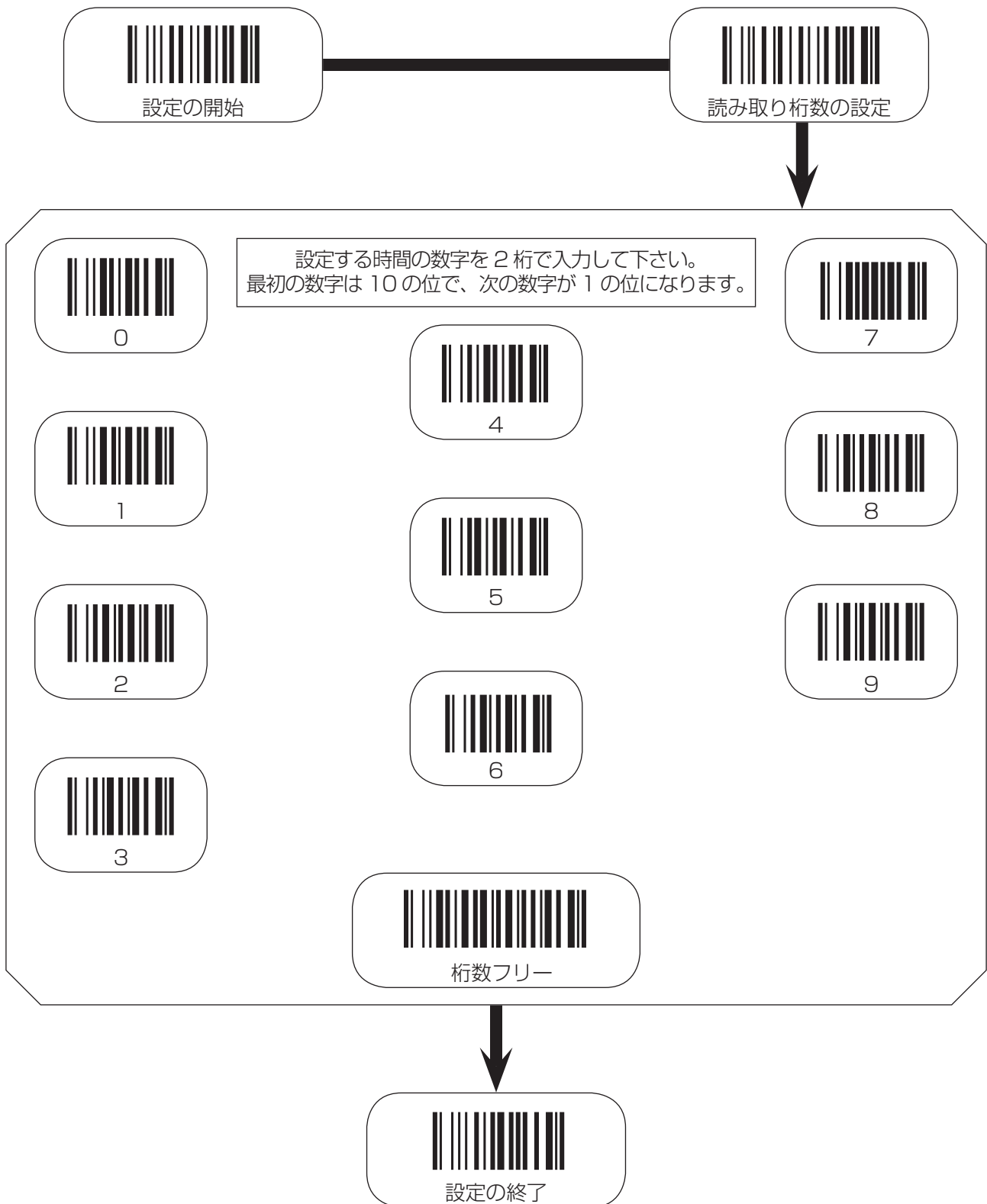
詳細については P10 の「Caps Lock 機能の設定」を参照して下さい。

● CODABAR コードの読み取り桁数の設定

CODABAR コードに設定した場合は以下の読み取り桁数の設定が必要です。

- ・ 桁数設定は最小桁数と最大桁数の数字をそれぞれ 2 桁の数字で入力します。
- ・ 最小桁数は 01 から、最大桁数は 99 までの設定が可能です。
- ・ 桁数を固定する場合は最小 / 最大桁数に同一の数値を入力します。
- ・ 桁数フリーの設定は "0199" の設定と同じ設定となります。

例) 最小 :2 最大 :25 で設定する場合は、"0225" と入力します。



CODE128 コードの設定



全ての CODE128 設定を無効

読み取りバーコードの設定



CODE128 の読み取り



EAN128 の読み取り



ISBT128 コードの読み取り

全てのコードは以下の設定となります。チェックデジット機能有効、送信禁止



データ前に GS 付加機能を無効



データ前に GS 付加機能を有効

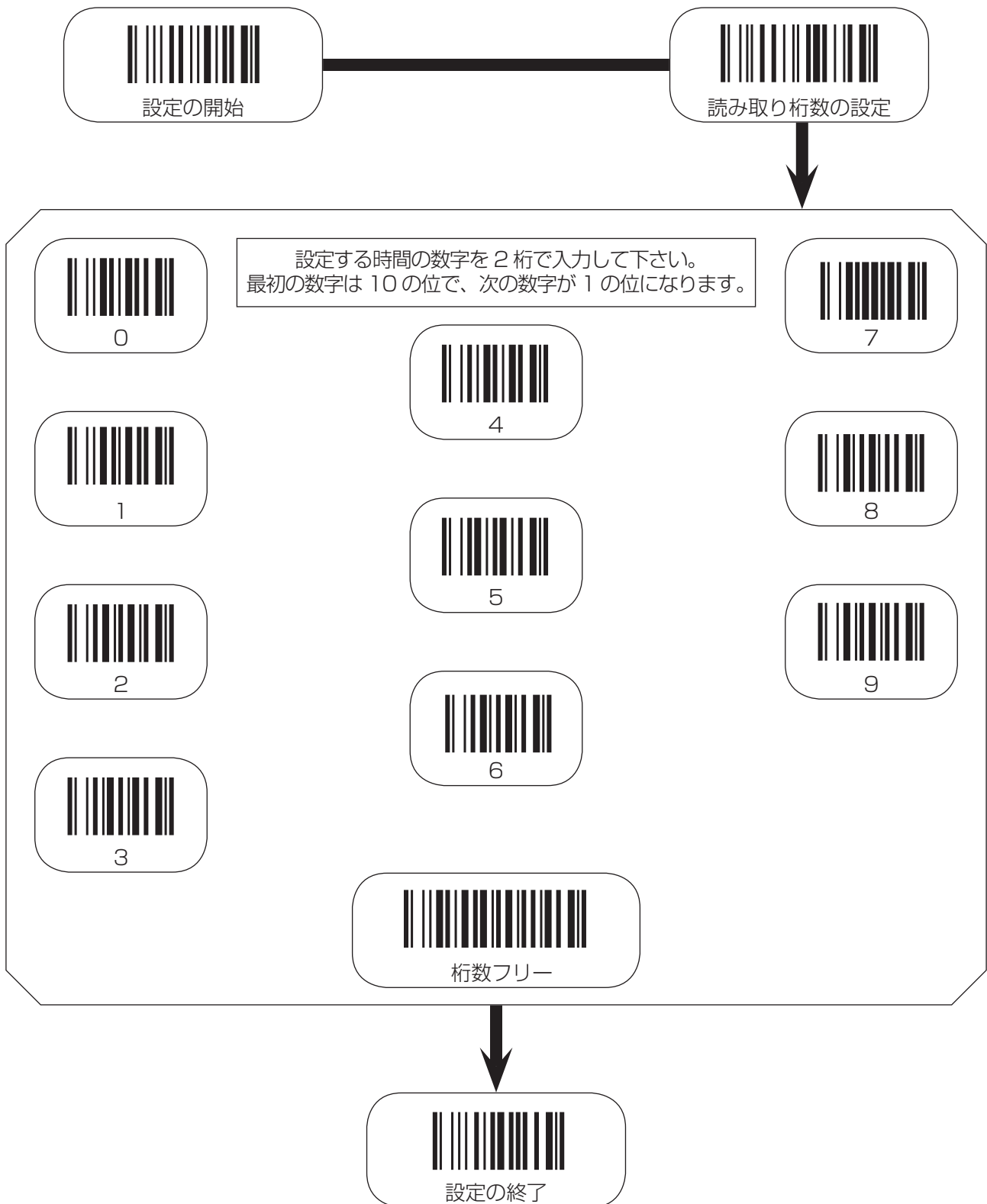
EAN128 の区切りキャラクタ (FNC1) を ASCII の GS(1Dhex) としてデータの前に出力する。

● COE128 コードの読み取り桁数の設定

CODE128 コードに設定した場合は以下の読み取り桁数の設定が必要です。

- ・ 桁数設定は最小桁数と最大桁数の数字をそれぞれ 2 桁の数字で入力します。
- ・ 最小桁数は 01 から、最大桁数は 99 までの設定が可能です。
- ・ 桁数を固定する場合は最小 / 最大桁数に同一の数値を入力します。
- ・ 桁数フリーの設定は "0199" の設定と同じ設定となります。

例) 最小 :2 最大 :25 で設定する場合は、"0225" と入力します。



CODE93 コードの設定



全ての CODE93 設定を無効

読み取りバーコードの設定



CODE93 の読み取り

CODE93 は以下の設定となります
チェックデジット機能有効、送信禁止

Code 49 コードの設定



Code 49 コードを無効にする

読み取りバーコードの設定



Code 49 コードを有効にする

Code 11 コードの設定

読み取りバーコードの設定



Code 11 コードを無効にする



CD 無し



Type C CD 有り送信



Type C CD 有り非送信



Type K CD 有り送信



Type K CD 有り非送信



Type C と K CD 有り送信



Type C と K CD 有り非送信

GS1 Databar コードの設定

読み取りバーコードの設定



GS1 Databar コードを無効にする



Exp Linear と Stacked の読み取り禁止



Exp Linear と Stacked の読み取り許可



Limited の読み取り禁止



Limited の読み取り許可



Linear と Stacked の読み取り禁止



Linear と Stacked の読み取り許可

ASCII キャラクタ配列表

ASCIIキャラクター一覧表(00hex~7Fhex)

下位桁 \ 上位桁	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DLE	SPACE	0	@	P	`	p
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w
8	BS	CAN	(8	H	X	h	x
9	HT	EM)	9	I	Y	i	y
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z
B	VT	ESC	+	;	K	[k	{
C	FF	FS	,	<	L	¥	l	;
D	CR	GS	-	=	M]	m	}
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL

ASCIIキャラクター一覧表(83hex~98hex)

Hex	キー	Hex	キー	Hex	キー	Hex	キー	Hex	キー
83	ENTER	88	F4	8D	F9	92	END	97	←
84	TAB	89	F5	8E	F10	93	PG UP	98	→
85	F1	8A	F6	8F	F11	94	PG DOWN		
86	F2	8B	F7	90	F12	95	↑		
87	F3	8C	F8	91	HOME	96	↓		

IDEC DATALOGIC 株式会社

本 社 大阪府大阪市淀川区三国本町 1-10-40 Phone 06-6398-3200 Fax 06-6398-3202

東 京 東京都港区港南 4-1-8 リバージュ品川 12 階 Phone 03-5715-2177 Fax 03-5715-2178

名古屋 名古屋市千種区今池 4-1-29 ニッセイ今池ビル Phone 052-732-1561 Fax 052-732-1562

URL <http://www.idljp.com>

No.0808